
次期長期総合計画策定に向けた
市民アンケート調査報告書（速報版）

令和5年10月
三原市

目次

第Ⅰ章 調査の概要	3
1 調査の目的.....	3
2 調査の実施方法・期間等.....	3
(1) 対象者.....	3
(2) 実施方法.....	3
(3) 実施期間.....	3
(4) 回収状況.....	3
3 設問の構成.....	4
4 報告書を読む際の留意点.....	5
(1) 集計方法.....	5
(2) 集計結果の端数処理.....	5
(3) その他.....	5
第Ⅱ章 調査の結果	6
1 回答者の属性【問1～7】.....	6
2 自身の幸福感【問8】.....	8
(1) 幸福感の点数.....	8
(2) 幸せではないと感じる理由.....	8
3 まちの住みやすさ【問9～13】.....	10
(1) まちの住みやすさ.....	10
(2) 今後の居留意向.....	14
(3) まちに対する愛着感.....	16
(4) 住みやすさを感じる場所、住みにくさを感じる場所.....	18
4 まちの人口減少【問14・15】.....	20
5 まちの現状の評価と今後取り組むべき施策について【問16】.....	23
(1) 現状の満足度.....	23
(2) 今後の重要度.....	25
6 就労【問17】.....	26
7 少子化【問18～21】.....	28
8 スポーツ【問22・23】.....	31
9 市からの情報発信【問24～26】.....	33
10 まちのイメージやめざすべき将来像のキーワード【問27・28】.....	35

第 I 章 調査の概要

1 調査の目的

本市では、将来のまちの姿を明らかにし、市民と市が協働し、オール三原で実現をめざして取り組むまちづくりの指針として定めた「みはら元気創造プラン(三原市長期総合計画)」が令和 6(2024)年度で最終年度を迎えることから、令和 7(2025)年度を初年度とする次期長期総合計画の策定に取り組んでいます。

このアンケート調査は、本市がこれまでに取り組んできた施策に対する満足度や、今後、より充実を図るべき取組などについて、幅広く意見をうかがい、次期長期総合計画に市民の声を反映させることを目的に実施したものです。

2 調査の実施方法・期間等

(1) 対象者

住民基本台帳から無作為抽出した市内在住の 16 歳以上の 6,000 人

(2) 実施方法

郵送による調査票の配布、郵送又はWEB（インターネット）による回答

(3) 実施期間

令和 5 年 7 月 10 日(月)～8 月 6 日(日)

(4) 回収状況

配布数 6,000 件、有効回収数 2,429 件（郵送分 1,863 件、WEB 分 566 件）、回収率 40.5%

年齢別回収状況	配付数	回収数	回収率	回収構成比	三原市の人口比 (R5.5.31 時点)
10 歳代(16 歳～19 歳)	250	55	22.0%	2.3%	4.6%
20 歳代	639	136	21.3%	5.6%	10.7%
30 歳代	632	194	30.7%	8.0%	12.0%
40 歳代	819	290	35.4%	11.9%	16.5%
50 歳代	1,132	455	40.2%	18.7%	17.2%
60 歳代	1,235	598	48.4%	24.6%	17.8%
70 歳代	1,293	694	53.7%	28.6%	21.3%
無回答	-	7	-	0.3%	-
合計	6,000	2,429	40.5%	100%	100%

地域別回収状況	配付数	回収数	回収率	回収構成比	三原市の人口比 (R5.5.31 時点)
三原地域	4,701	1,916	40.8%	78.9%	78.3%
本郷地域	709	281	39.6%	11.6%	11.9%
久井地域	265	107	40.4%	4.4%	4.4%
大和地域	325	118	36.3%	4.9%	5.4%
無回答	-	7	-	0.3%	-
合計	6,000	2,429	40.5%	100%	100%

3 設問の構成

対象分野	設問番号	設問の概要	回答形式
1 回答者の属性	問 1	性別	単一
	問 2	年齢	単一
	問 3	居住地域	単一
	問 4	配偶者(事実婚を含む)の有無	単一
	問 5	家族構成	単一
	問 6	18歳未満の子どもの人数	単一
	問 7	通算の居住年数	単一
2 自身の幸福感	問 8	「とても幸せ」を10点、「とても不幸を0点」とした場合の点数	単一
	8-2	点数が4点以下の場合、幸せではないと感じる理由	上位1~3
3 まちの住みやすさ	問 9	まちの住みやすさ	単一
	問 10	ここ数年の間における「住みやすさ」の変化	単一
	問 11	今後の居住意向	単一
	11-2	「どちらかといえば引っ越したい」、または「引っ越したい」を選んだ場合、その理由	単一
	問 12	まちに対する愛着感	単一
	12-2	「とても愛着を感じている」、または「どちらかという愛着を感じている」を選んだ場合、その理由	2つまで
3 まちの住みやすさ	問 13	「住みやすさ」を感じる場所、「住みにくさ」を感じる場所	各5つまで
4 まちの人口減少	問 14	今後の人口減少に対する認知度	単一
	問 15	今後の人口減少を抑えるために、行政が注力すべきと取組	上位1~3
5 まちの現状の評価と今後の取り組むべき施策	問 16	【現状の満足度+今後の重要度】 協働のまち(1~6)、文化・教育(7~12)、産業・交流(13・14)、健やかな暮らし(15)、安心・安全(16~23) 【現状の満足度+今後の重要度+今後特に力を入れてほしい取組】 産業・交流(24~29)、健やかな暮らし(30~34)、安心・安全(35~38)	【満足度】 【重要度】 は単一 【取組】 は2つまで
6 就労	問 17	現在の就労場所	単一
	17-2	該当する職業	単一
	17-3	「働いていない」を選んだ場合、その理由	単一
7 少子化	問 18	子どもの数を増やすための取組	いくつでも
	問 19	理想の子どもの人数	単一
	問 20	今後もちたい子どもの人数	単一
	問 21	問 19・20 で「0人」を選んだ場合、その理由	自由記述
8 スポーツ	問 22	最近1年間におけるスポーツや運動の実施頻度	単一
	問 23	最近1年間における自転車の利用頻度	単一
9 市からの情報発信	問 24	市の情報の入手手段	3つまで
	問 25	市が発信している避難情報の入手手段	3つまで
	問 26	自身にとって必要な市の情報	3つまで
10 まちのイメージや将来像のキーワード	問 27	現在のまちのイメージと将来の望ましいまちのイメージ	各上位1~3
	問 28	めざすべきまちの姿を表すキーワードや大切にしてほしいこと	上位1~3

4 報告書を読む際の留意点

(1) 集計方法

回答全体をまとめて集計した「単純集計」と、性別や年代等の属性ごとに区分した「クロス集計」を行っています。

(2) 集計結果の端数処理

- 回答率（回答した人の割合）は、小数第2位を四捨五入して端数処理を行っているため、数値の合計が100%にならない場合や、図表中の合計値と文章中に表記した数値が一致していない場合があります。
- 図表中にある「n」は、設問の回答総数を示しています。また、有効ではない回答については、回答総数から除いているため、「n」と有効回収数（2,429件）は必ずしも一致しない場合があります。
- 回答率は、その設問の回答数を母数として算出しているため、複数回答の設問は全ての比率を合計すると100%を超えています。

(3) その他

- 一般的に母集団が2万人以上の場合、統計上は無限母集団として捉えるため、2,000人程度を対象とすれば母集団全体の意見を反映しているといわれています。本調査は2万人以上の無限母集団であり、対象者数6,000人（有効回収数2,429人）は、統計上有効な数値であると考えられます。
- 本文及び図表中で回答の選択肢の表記が長いものは、適宜、表記を一部簡略化しています。
- 「無回答」や「回答しない」が設問の回答率で最も高かった場合、文章中に表記していません。
- クロス集計における各属性の回答者数が30未満の場合は、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめています。

第Ⅱ章 調査の結果

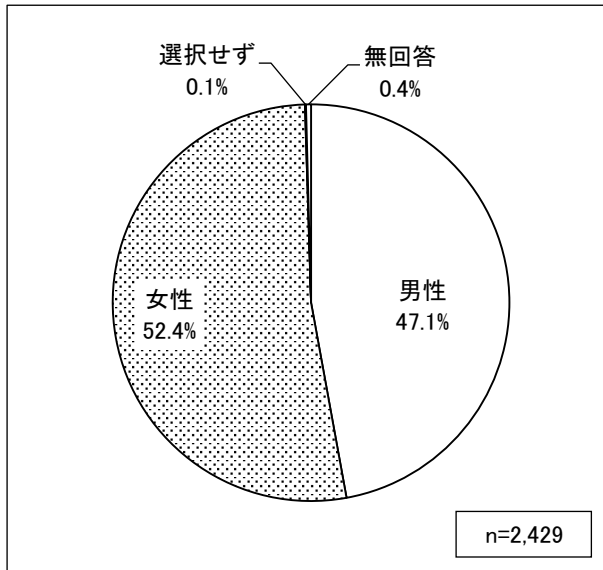
1 回答者の属性【問1～7】

問1) 性別 問2) 年齢

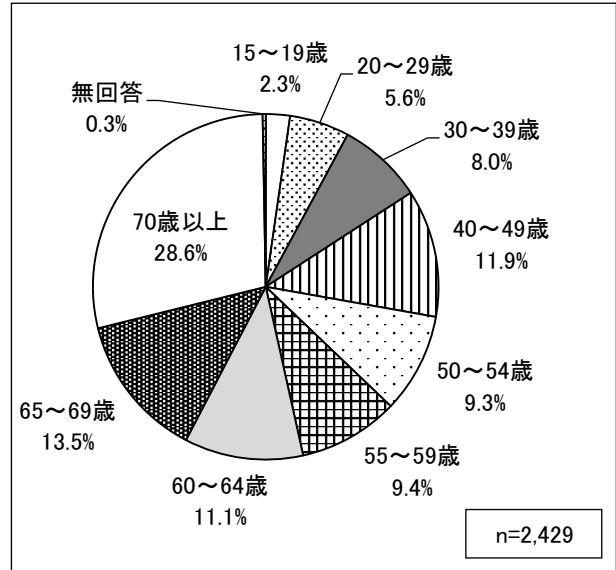
○性別では「女性」が52.4%で、「男性」の47.1%より5.3ポイント高くなっています。

○年代別では「70歳以上」が28.6%で最も高く、以下、「65～69歳」の13.5%、「60～64歳」の11.1%の順であり、60歳以上の回答比率が半数以上となっています。

図表Ⅱ-1 性別



図表Ⅱ-2 年齢

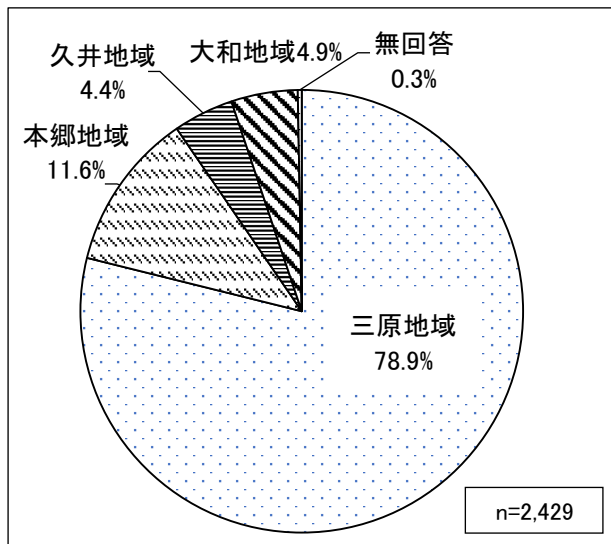


問3) 居住地域 問4) 配偶者の有無

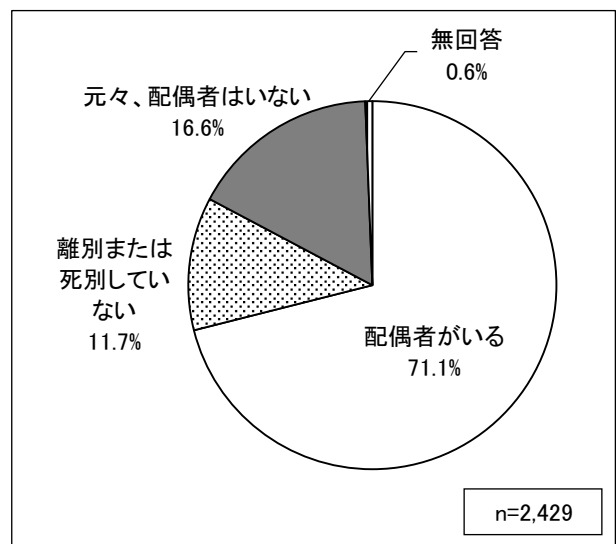
○居住地域では「三原地域」が78.9%で最も多く、次いで「本郷地域」の11.6%となっています。

○配偶者の有無では「配偶者がいる」が71.1%で最も多く、次いで「元々、配偶者はいない」の16.6%となっています。

図表Ⅱ-3 居住地域



図表Ⅱ-4 配偶者の有無

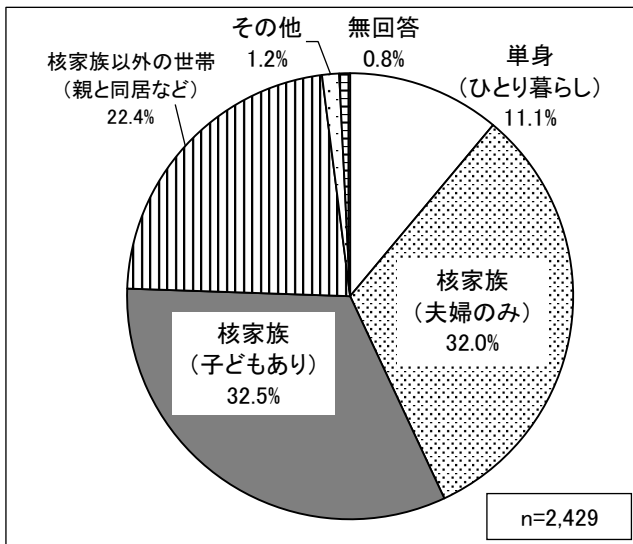


問5) 家族構成 問6) 18歳未満の子どもの人数

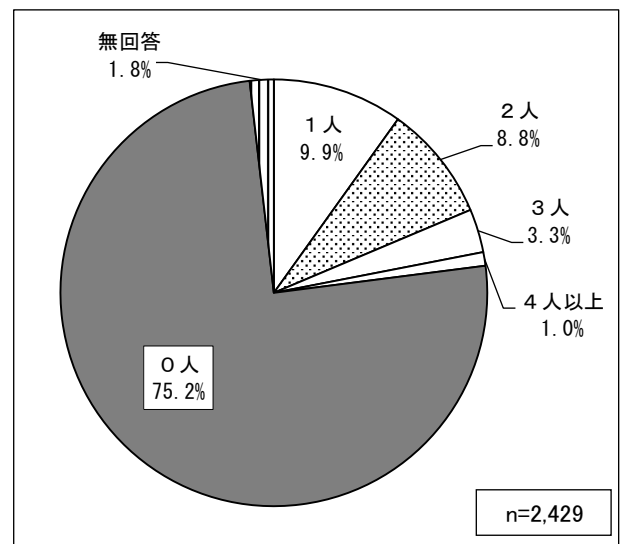
○家族構成では「核家族（子どもあり）」が 32.5%で最も多く、次いで「核家族（夫婦のみ）」の 32.0%となっています。

○世帯にいる 18歳未満の子どもの人数では「0人」が 75.2%で最も多く、次いで「1人」の 9.9%となっています。

図表Ⅱ-5 家族構成



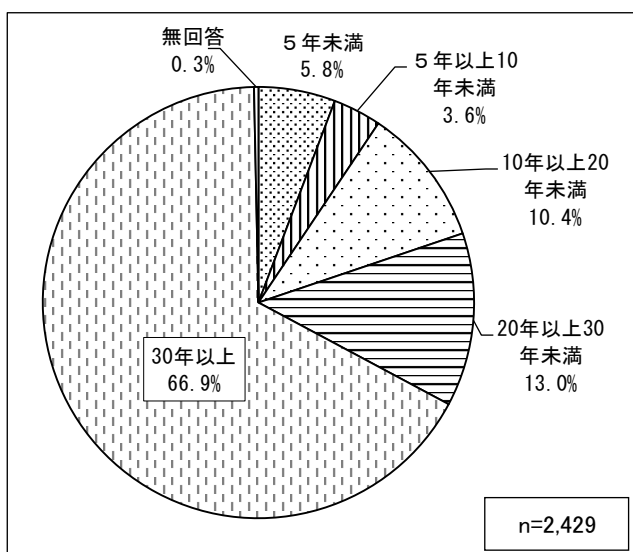
図表Ⅱ-6 18歳未満の子どもの人数



問7) 三原市での居住年数

○三原市での通算の居住年数では「30年以上」が 66.9%で最も多く、「20年以上 30年未満」が 13.0%となっています。

図表Ⅱ-7 通算の居住年数



2 自身の幸福感【問8】

(1) 幸福感の点数

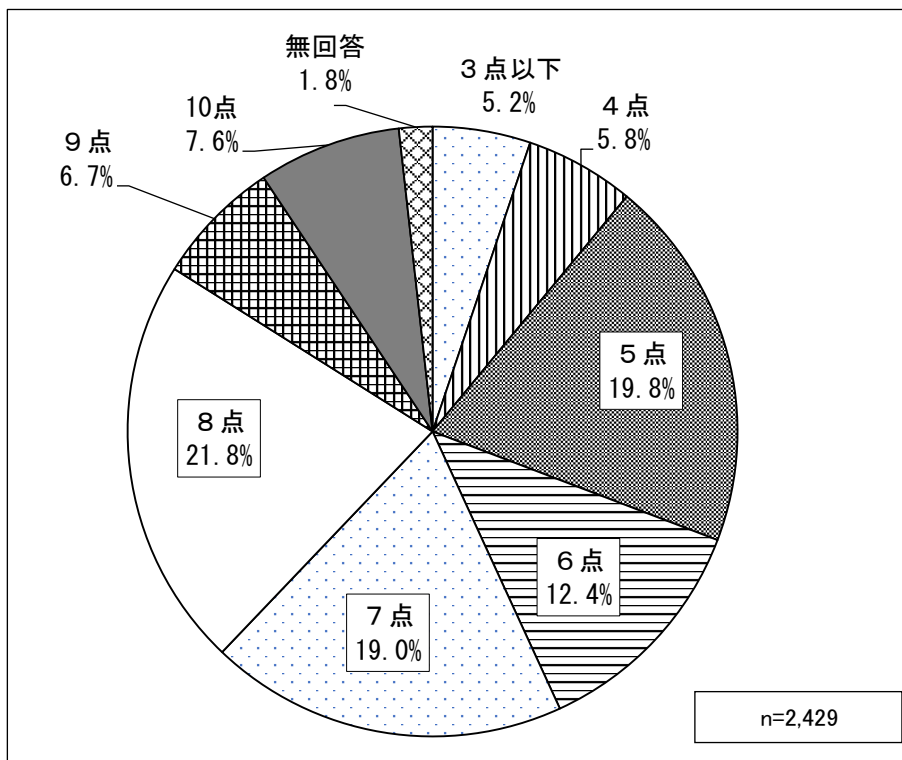
問8) 現在、あなたはどの程度「幸せ」だと感じていますか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。

— 「10点（とても幸せ）」が7.6%、「6点」以上の割合が7割弱を占める—

○幸福度について、全体では「10点（とても幸せ）」が7.6%となっている一方で、「3点未満」は5.2%となっています。

○「6点」以上の回答が67.4%と過半数を超えています。

図表Ⅱ-8-1 幸福感の点数

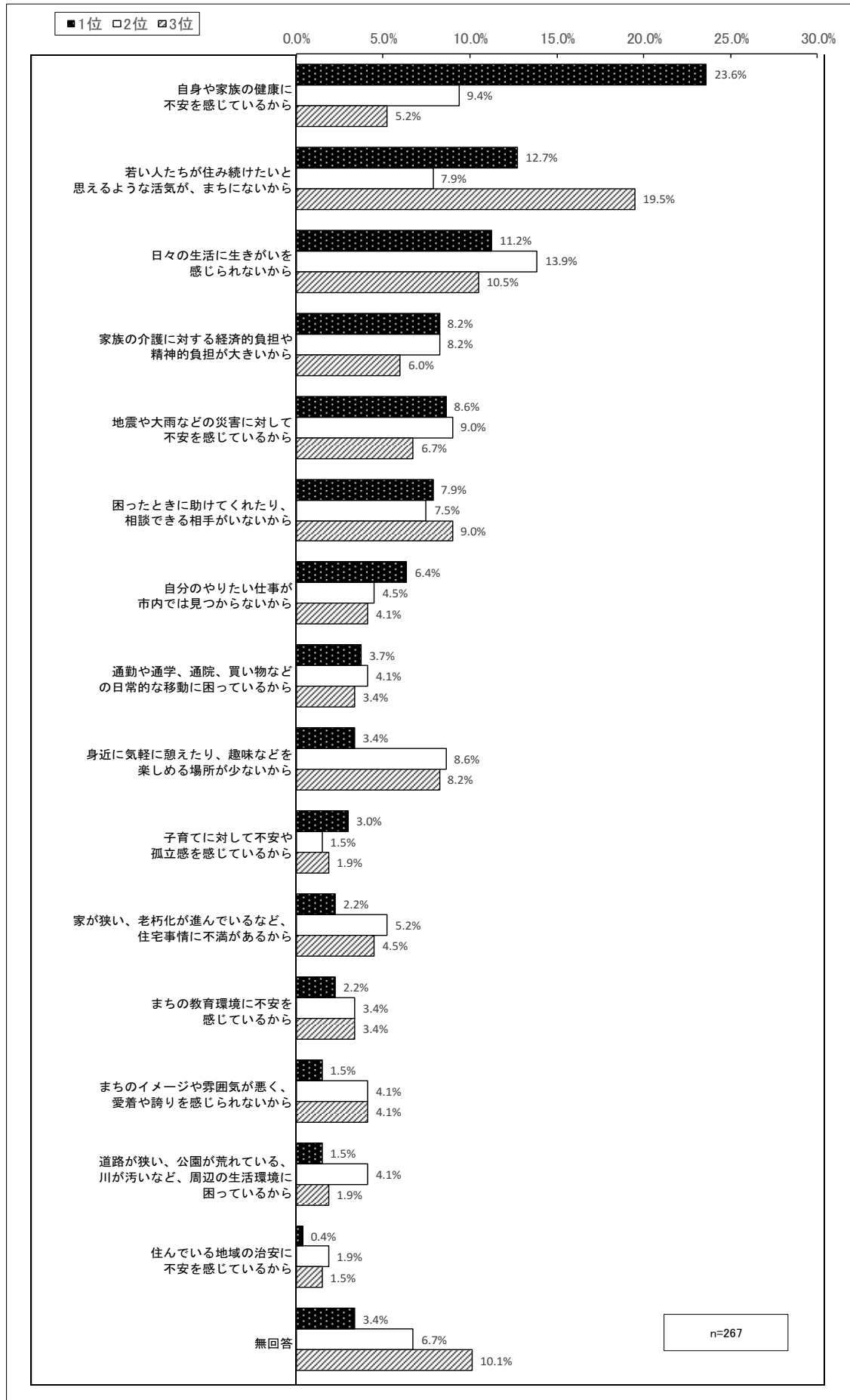


(2) 幸せではないと感じる理由

問8-2) 現在、あなたが幸せではないと感じる理由について、お気持ちに近い理由を1位から3位まで選んでください。（問8で4点以下を選んだ方を対象）

○4点以下の理由として第1位に挙げられているのは、「自身や家族の健康に不安を感じているから」が23.6%で最も多く、次いで「若い人たちが住み続けたいと思えるような活気が、まちないから」が12.7%、「日々の生活に生きがいを感じられないから」が11.2%となっています。

図表Ⅱ-8-2 幸せではないと感じる理由



3 まちの住みやすさ【問9～13】

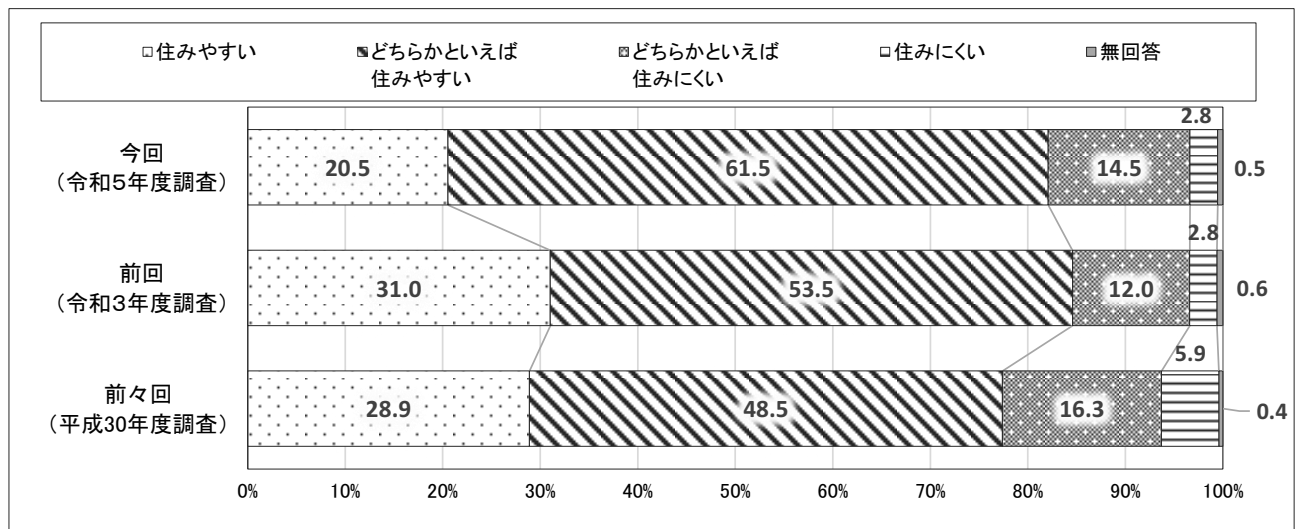
(1) まちの住みやすさ

問9) あなたは、三原市は「住みやすい」と思いますか。

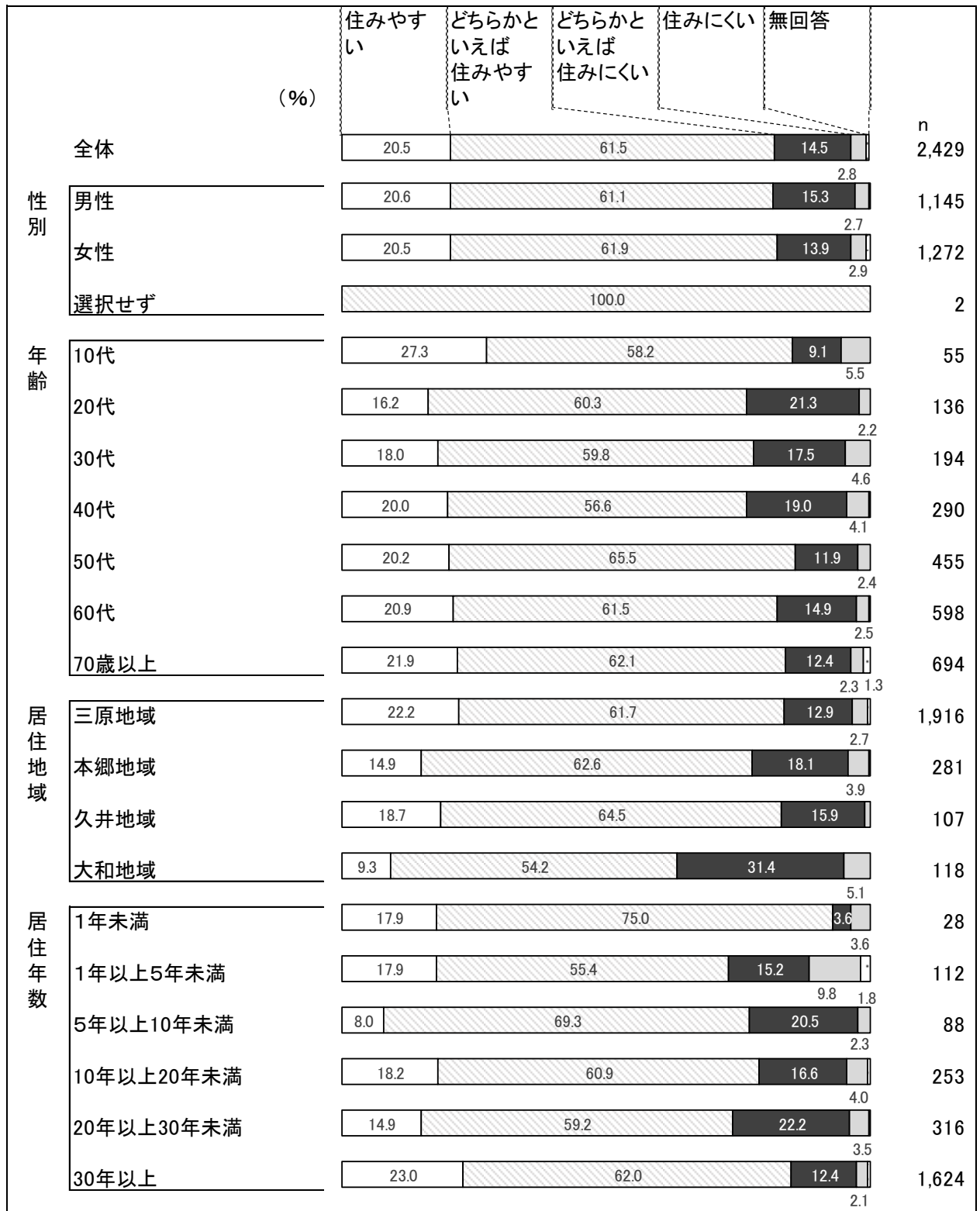
— 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合計が82.0%を占め、
前々回の77.4%は上回るも、前回の84.5%は下回っている—

- まちの住みやすさについて、全体では「住みやすい等（「住みやすい（20.5%）」＋「どちらかといえば住みやすい（61.5%）」）が82.0%で、「住みにくい等（「どちらかといえば住みにくい（14.5%）」＋「住みにくい（2.8%）」）の17.3%を大きく上回っています。
- 年代別に見ると「20代」、「30代」、「40代」を除きいずれも「住みやすい等」が80%以上となっており、その中では「50代」が85.7%で最も高く、次いで「10代」の85.5%となっています。
- 居住地域別にみると、「住みやすい等」と回答した人の割合は、「大和地域（63.5%）」を除きいずれも70%以上となっており、その中では「三原地域」が83.9%と最も高く、次いで「久井地域」の83.2%となっています。
- 居住年数別にみると、「住みやすい等」と回答した人の割合は、全ての年数で70%以上となっており、「1年未満」が92.9%と最も高く、次いで「30年以上」の85.0%となっています。

図表Ⅱ－9－1 住みやすさ（前回・前々回との比較）（%）



図表Ⅱ-9-2 住みやすさ

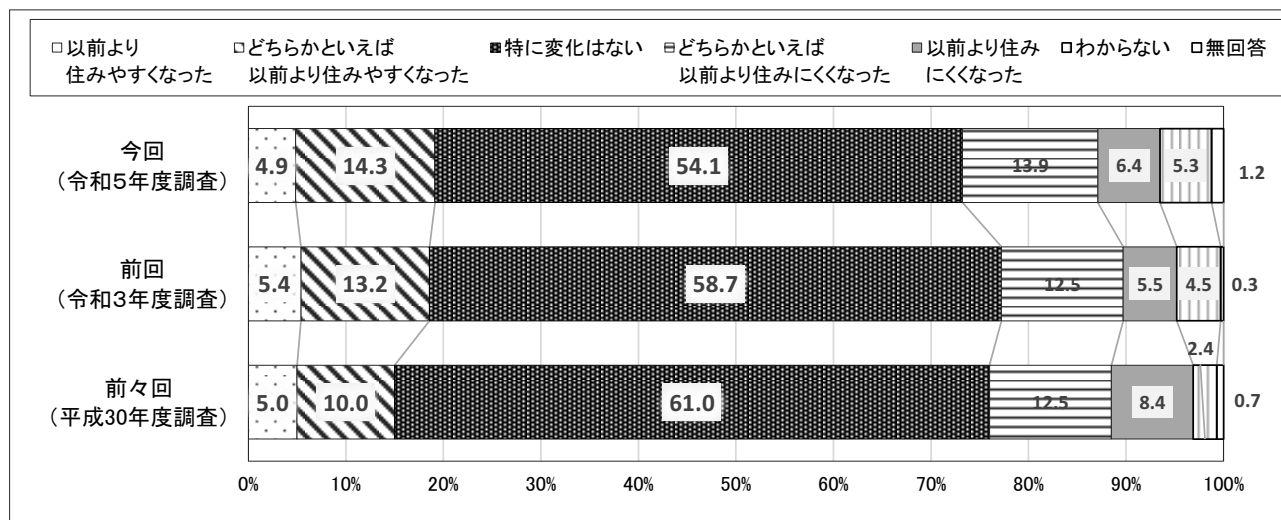


問 10) ここ数年の間に、「住みやすさ」に変化はありましたか。

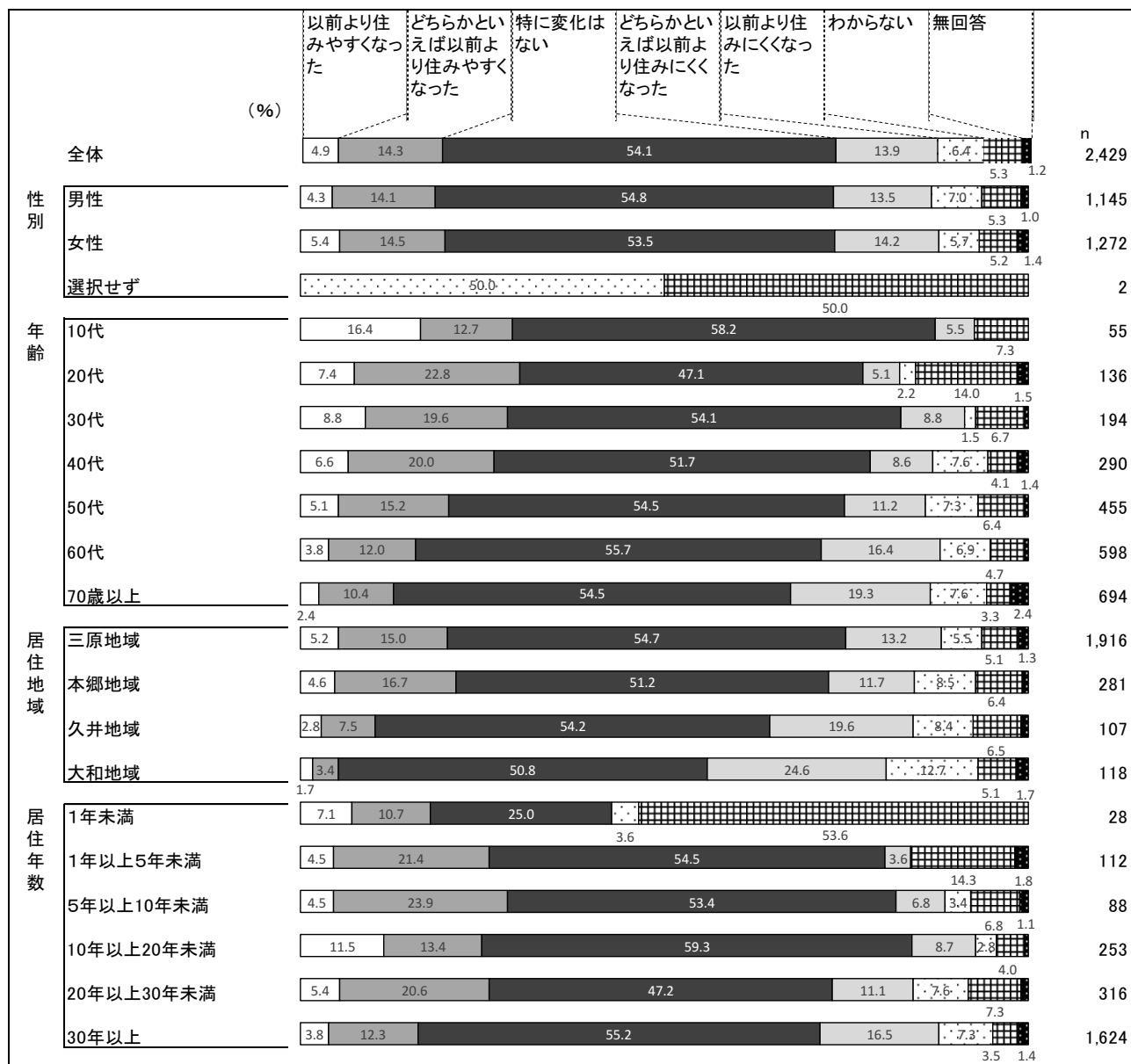
— 「以前より住みやすくなった」「どちらかといえば以前より住みやすくなった」の合計が 19.2%となり、前々回の 15.0%、前回の 18.6%を上回っている—

- 住みやすさの変化について、全体では「以前より住みやすくなった等（「以前より住みやすくなった（4.9%）」＋「どちらかといえば以前より住やすくなった（14.3%）」）が 19.2%で、「住みにくくなった等（「どちらかといえば以前より住みにくくなった（13.9%）」＋「以前より住みにくくなった（6.4%）」）の 20.3%を下回っています。
- 年代別に見ると、「以前より住みやすくなった等」と回答した人の割合は、「20代」を除きいずれも 30%以下となっており、その中では「70 歳以上」が 12.8%で最も低く、次いで「60代」の 15.8%となっています。
- 居住地域別にみると、「以前より住みやすくなった等」と回答した人の割合は、全ての地域で 30%を下回っており、その中では「大和地域」が 5.0%と最も低く、次いで「久井地域」の 10.3%となっています。
- 居住年数別にみると、「以前より住みやすくなった等」と回答した人の割合は、全ての年数で 30%を下回っており、「30年以上」が 16.1%と最も低く、次いで「1年未満」の 17.8%となっています。

図表Ⅱ－10－1 住みやすさの変化（前回・前々回との比較）（%）



図表Ⅱ-10-2 住みやすさの変化



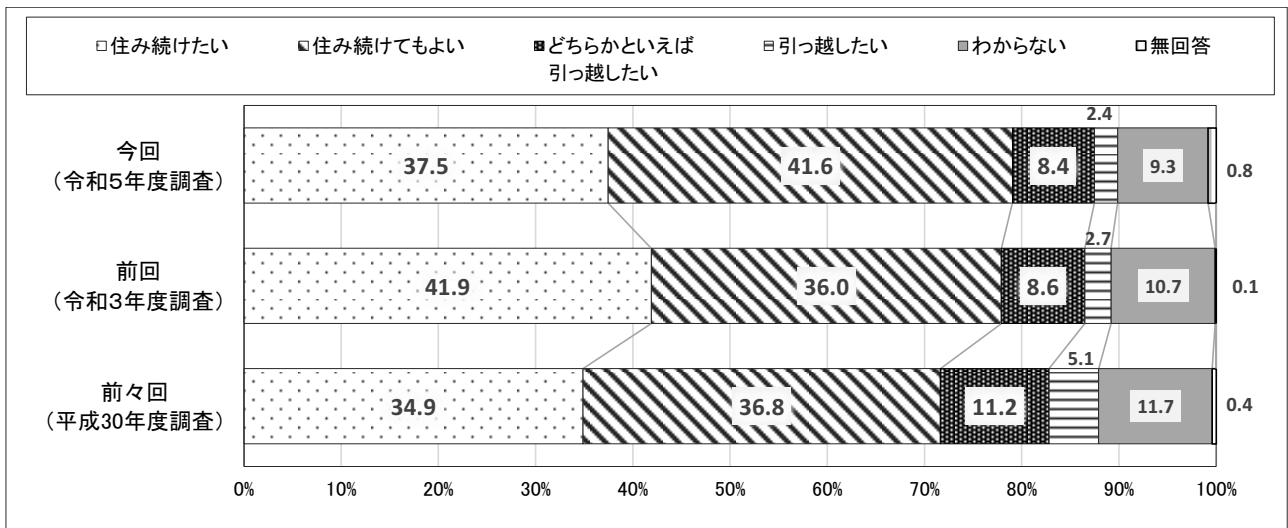
(2) 今後の居住意向

問 11) あなたは、これからも三原市に住み続けたいと思いますか。

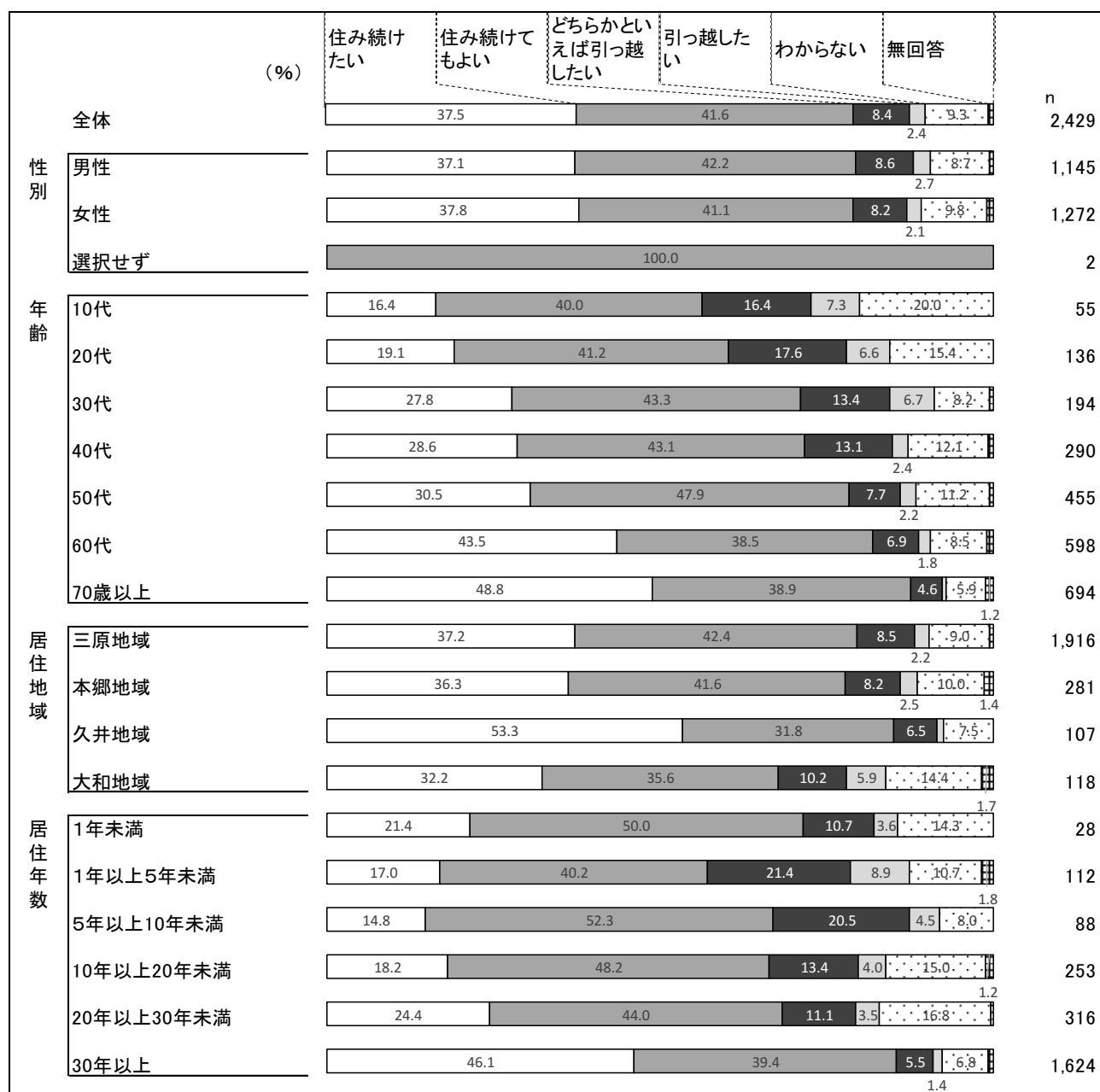
— 「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合計が 79.1%を占め、
前々回の 71.7%、前回の 77.9%を上回っている—

- 今後の居住意向について、全体では「住み続けたい等（「住み続けたい（37.5%）」＋「住み続けても良い（41.6%）」）が 79.1%で、「住みたくない等（「どちらかといえば引っ越したい（8.4%）」＋「引っ越したい（2.4%）」）の 10.8%を大きく上回っています。
- 年代別に見ると、「住み続けたい等」と回答した人の割合は、「10代（56.4%）」、「20代（60.3%）」を除きいずれも 70%以上となっており、その中では「70歳以上」が 87.7%で最も高く、次いで「60代」の 82.0%となっています。
- 居住地域別にみると、「住み続けたい等」と回答した人の割合は、「大和地域（67.8%）」を除きいずれも 70%以上となっており、その中では「久井地域」が 85.1%と最も高く、次いで「三原地域」の 79.6%となっています。
- 居住年数別にみると、「住み続けたい等」と回答した人の割合で 70%以上となったのは、「30年以上」が 85.5%と最も高く、次いで「1年未満」の 71.4%となっています。

図表Ⅱ-11-1 居住意向の変化（前回・前々回との比較）（%）



図表Ⅱ-11-2 今後の居住意向

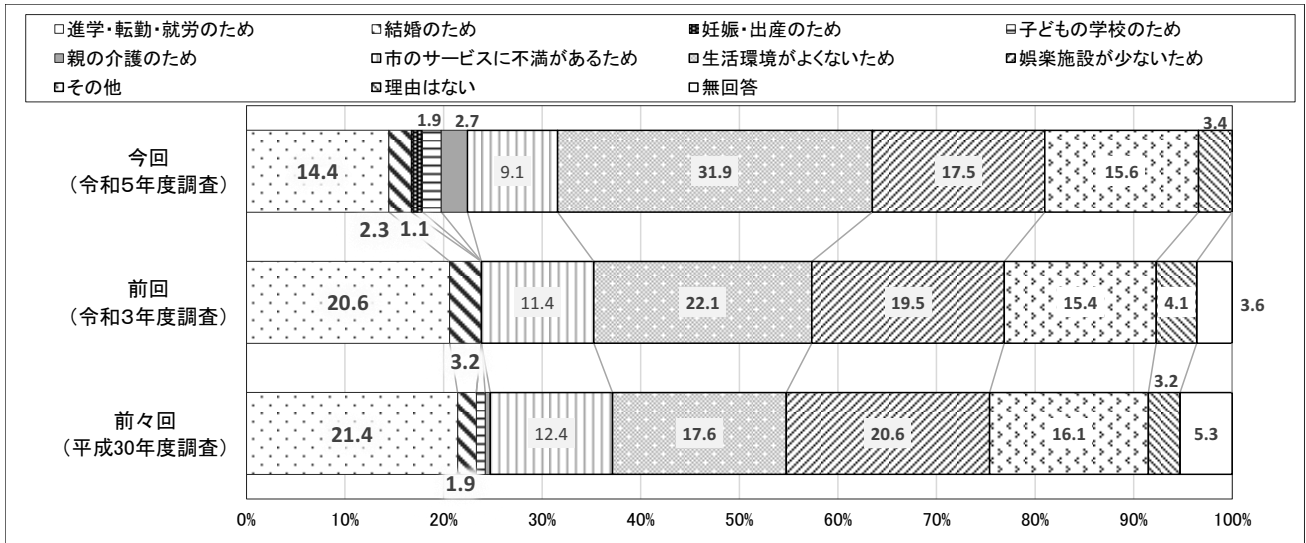


問 11-2) 引っ越したい理由は、何ですか。(問 11 で「どちらかといえば引っ越したい」、または「引っ越したい」を選んだ方を対象)

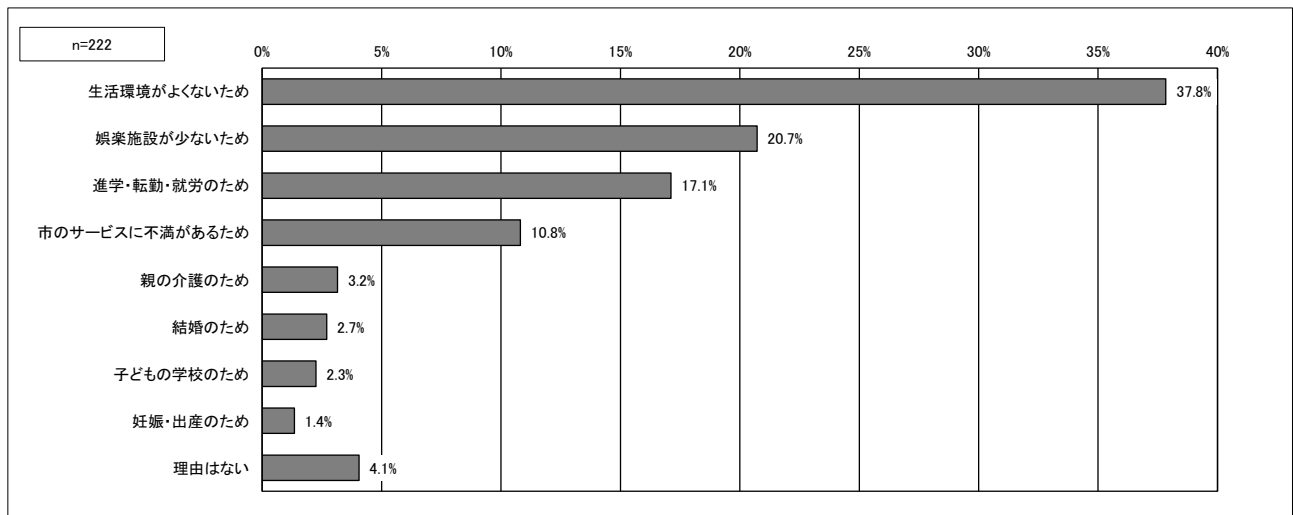
— 「生活環境が良くないため」が 31.9%となり、
前々回の 17.6%、前回の 22.1%を上回っている—

○引っ越しをしたい理由として「生活環境が良くないため」が 31.9%と突出しており、次いで「娯楽施設が少ないため」の 20.7%、「進学・転勤・就労のため」の 17.1%となっています。

図表Ⅱ-11-3 の変化（前回・前々回との比較）（％）



図表Ⅱ-11-4 引っ越しをしたい理由



(3) まちに対する愛着感

問 12) あなたは、三原市にどの程度愛着を感じていますか。

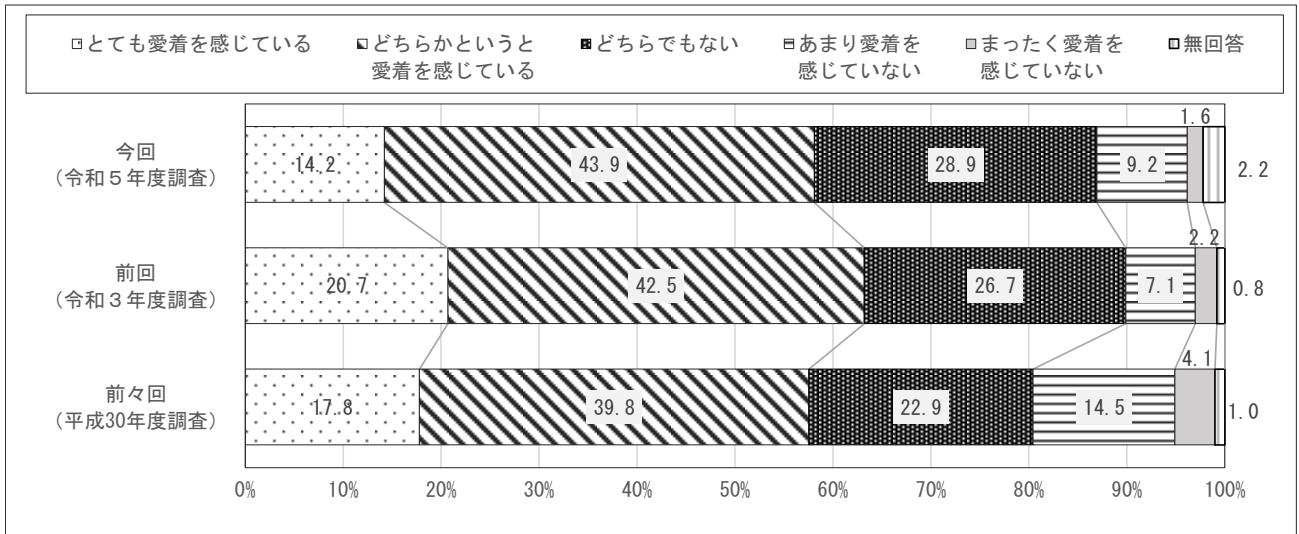
— 「とても愛着を感じている」「どちらかといえば住みよい」の合計が 58.1%となり、前々回の 57.6%は上回るも、前回の 63.2%は下回っている—

○まちに対する愛着感について、全体では「愛着を感じている（「とても愛着を感じている（14.2%）」＋「どちらかという愛着を感じている（43.9%）」）」が 58.1%で、「愛着を感じていない（「あまり愛着を感じていない（9.2%）」＋「まったく愛着を感じていない（1.6%）」）」の 10.8%を大きく上回っています。

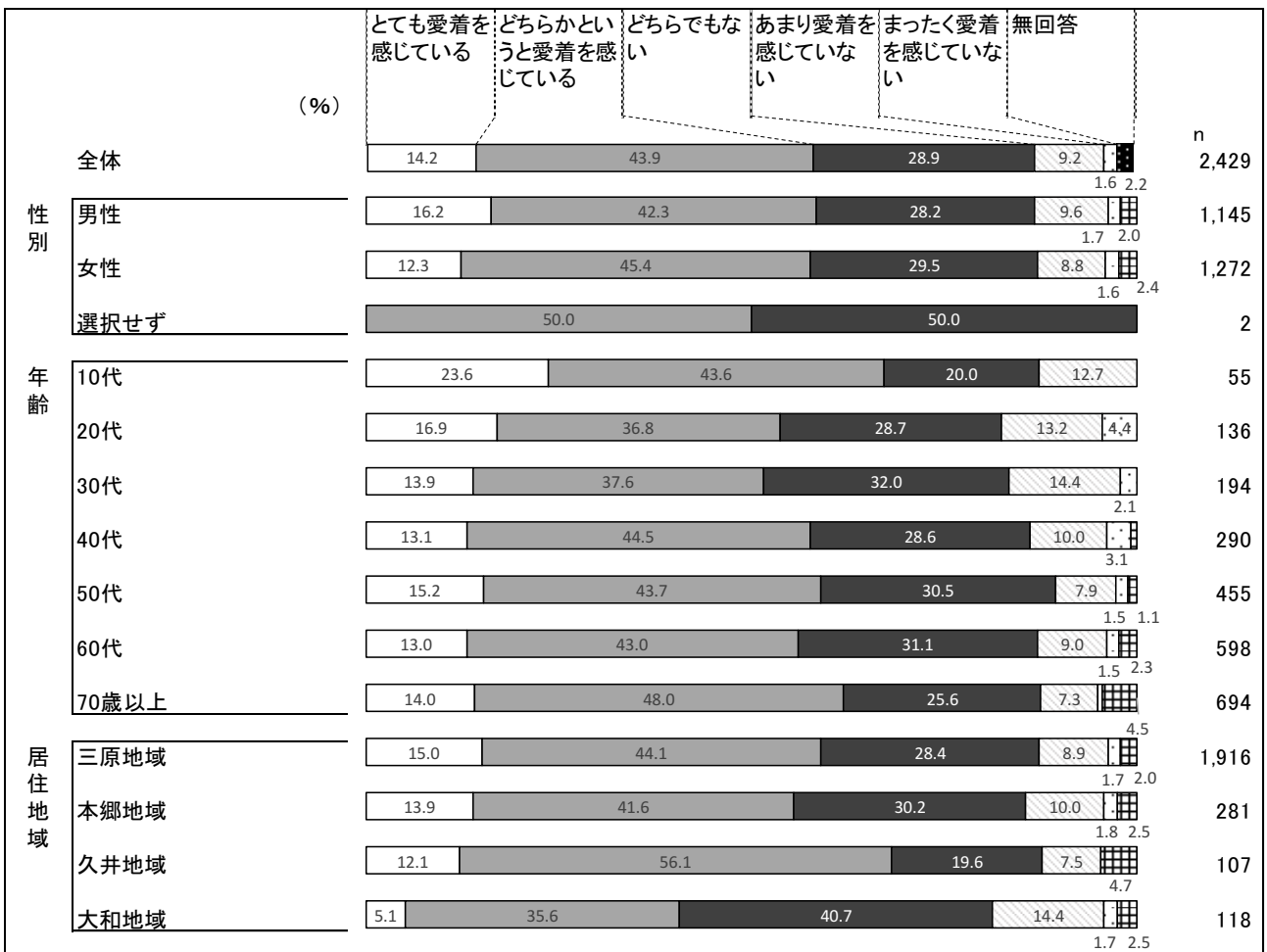
○年代別に見ると、「愛着を感じている」と回答した人の割合は、すべての世代で 50%以上となっており、「10代」が 67.2%で最も高く、次いで「70歳以上」の 62.0%となっています。

○居住地域別にみると、「愛着を感じている」と回答した人の割合は、「久井地域」が68.2%と最も高く、次いで「三原地域」の59.1%となっています。

図表Ⅱ-12-1 愛着感（前回・前々回との比較）（%）



図表Ⅱ-12-2 まちに対する愛着感（%）

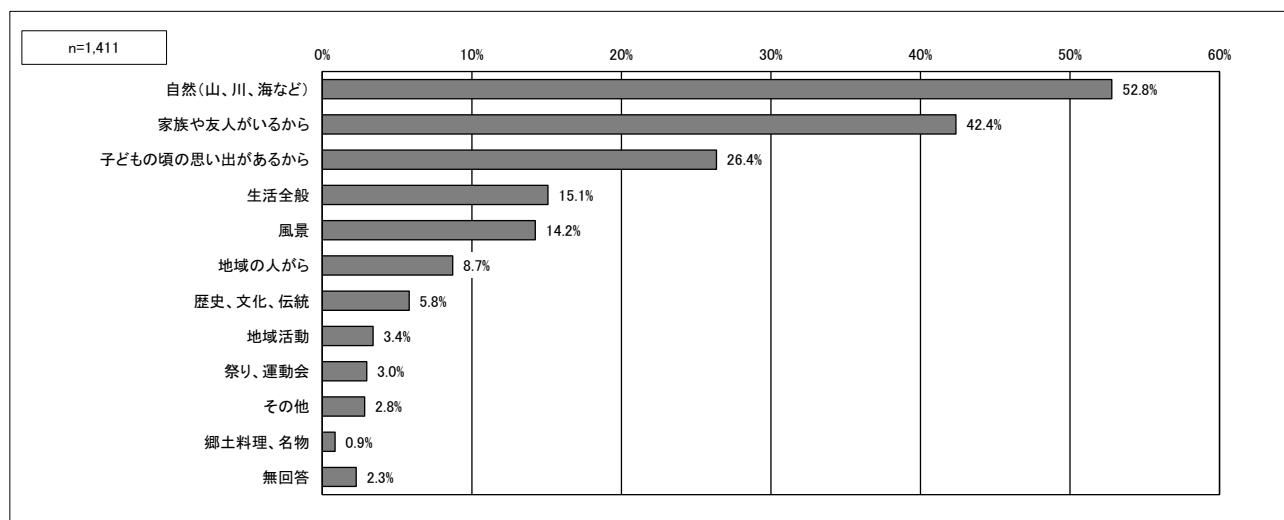


問 12-2) あなたは、三原市のどんなところに愛着を感じていますか。(問 12 で「とても愛着を感じている」、または「どちらかというとな愛着を感じている」を選んだ方を対象)

—前々回、前回に続き「自然(山、川、海など)」が最も高い—

○愛着を感じる理由として「自然(山、川、海など)」が 52.8%で最も高く、次いで「家族や友人がいるから」の 42.4%、「子どもの頃の思い出があるから(同級生、友人、遊んだ場所など)」の 26.4%となっています。

図表Ⅱ-12-3 愛着を感じる場所(○は2つまで)



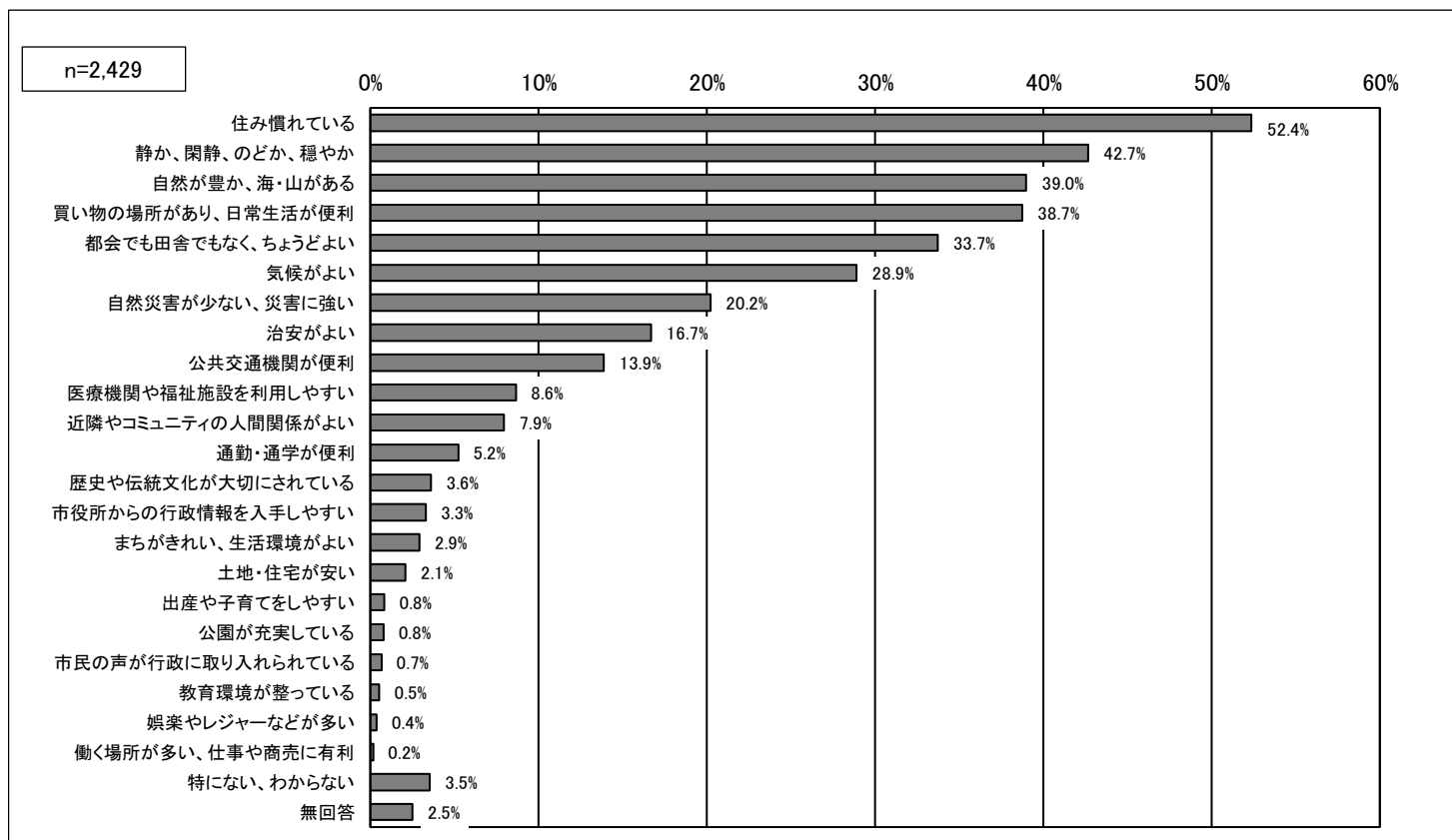
(4) 住みやすさを感じる場所、住みにくさを感じる場所

問 13) あなたが三原市で「住みやすさ」を感じる場所、「住みにくさ」を感じる場所は何ですか。

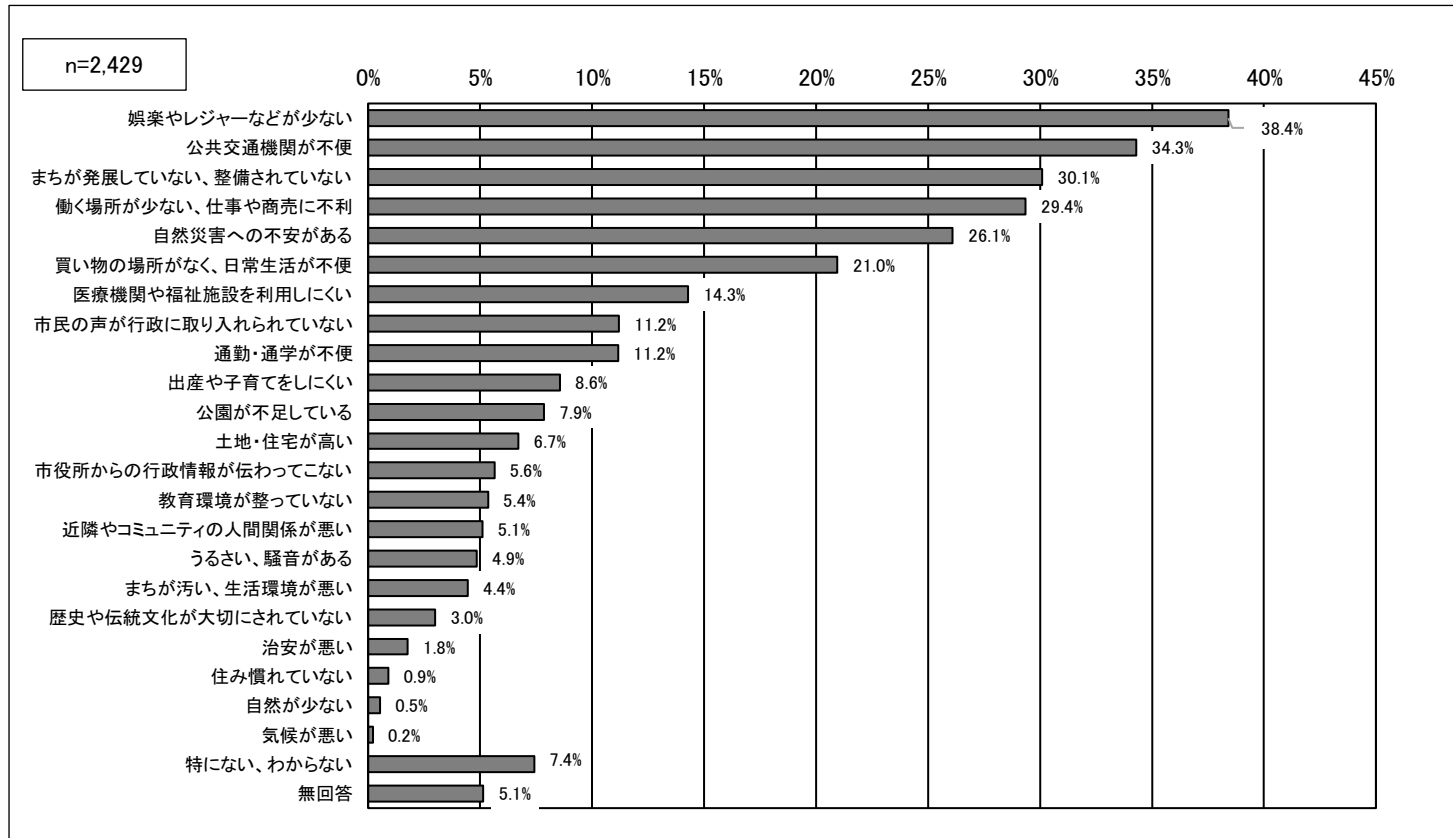
—住みやすさでは「住み慣れている」が最も高く、
住みにくさでは、「娯楽やレジャーなどが少ない」が最も高い—

○「住みやすさ」を感じる場所について、「住み慣れている」が 52.4%で最も高く、次いで「静か、閑静、のどか、穏やか」が 42.7%、「自然が豊か、海、山がある」が 39.0%となっています。
○「住みにくさ」を感じる場所について、「娯楽やレジャーなどが少ない」が 38.4%で最も高く、次いで「公共交通機関が不便」が 34.3%、「まちが発展していない、整備されていない」が 30.1%となっています。

図表Ⅱ-13-1 「住みやすさ」を感じるころ（〇は5つまで）



図表Ⅱ-13-2 「住みにくさ」を感じるころ（〇は5つまで）



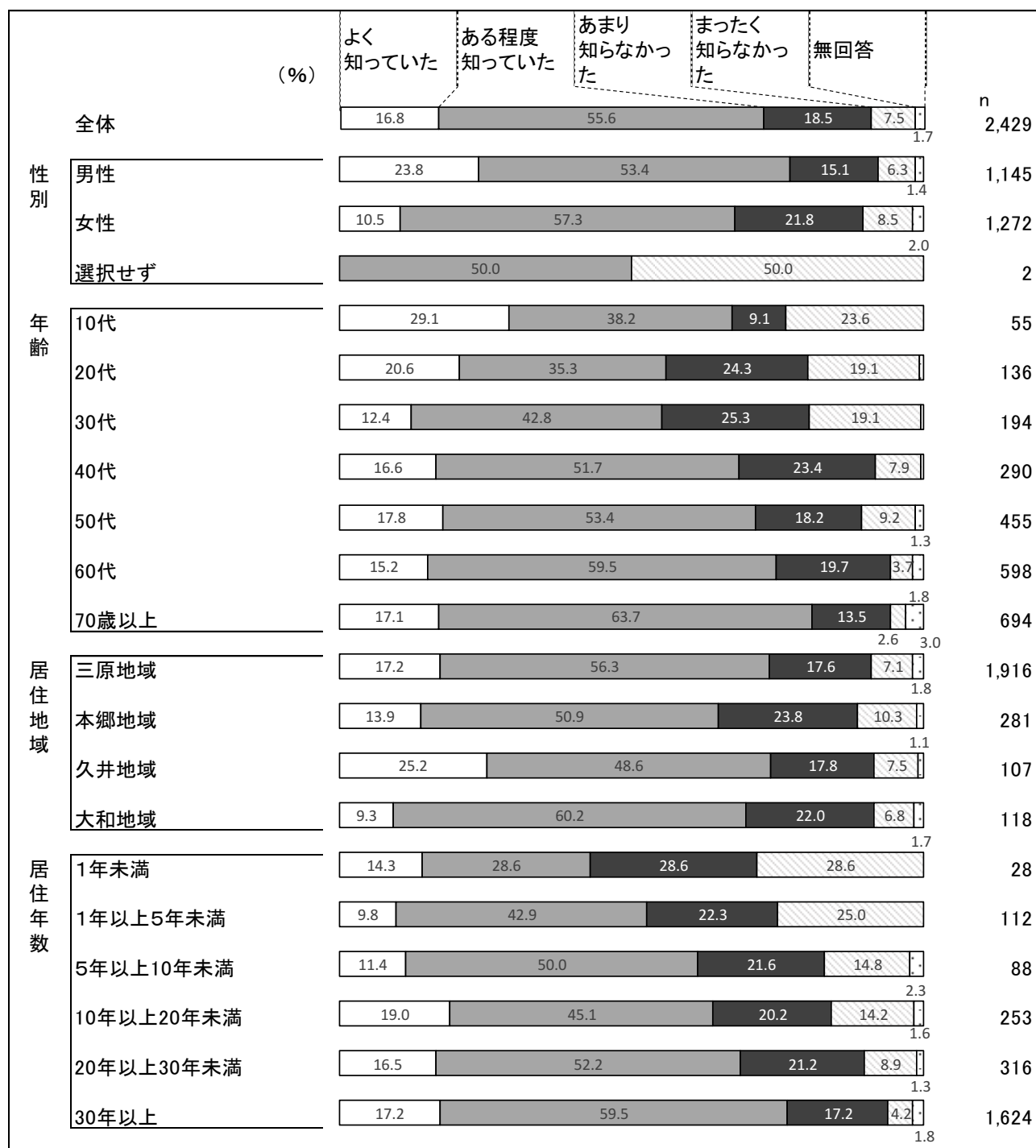
4 まちの人口減少【問 14・15】

問 14) あなたは、今後の三原市の人口減少の状況について知っていましたか。

— 「知っていた」が 72.4%で、「知らなかった」の 26.0%を大きく上回る—

- まちの人口減少について、全体では「知っていた（「よく知っていた（16.8%）」＋「ある程度知っていた（55.6%）」が 72.4%で、「知らなかった（「あまり知らなかった（18.5%）」＋「まったく知らなかった（7.5%）」）の 26.0%を大きく上回っています。
- 年代別にみると、「知っていた」と回答した人の割合は、「20代」、「30代」を除きいずれも 60%以上となっており、その中では「70歳以上」が 80.8%と最も高く、次いで「60代」の 74.7%となっています。
- 居住地域別にみると、「知っていた」と回答した人の割合は、全ての地域で 60%以上となっており、その中では「久井地域」が 73.8%で最も高く、次いで「三原地域」の 73.5%、「大和地域」の 69.5%となっています。
- 居住年数別にみると、「知っていた」と回答した人の割合は、「1年未満」と「1年以上5年未満」を除きいずれも 60%以上となっており、その中では「30年以上」が 76.7%で最も高く、次いで「20年以上30年未満」の 68.7%、「10年以上20年未満」の 64.1%となっています。

図表Ⅱ-14-1 人口減少を知っていたか

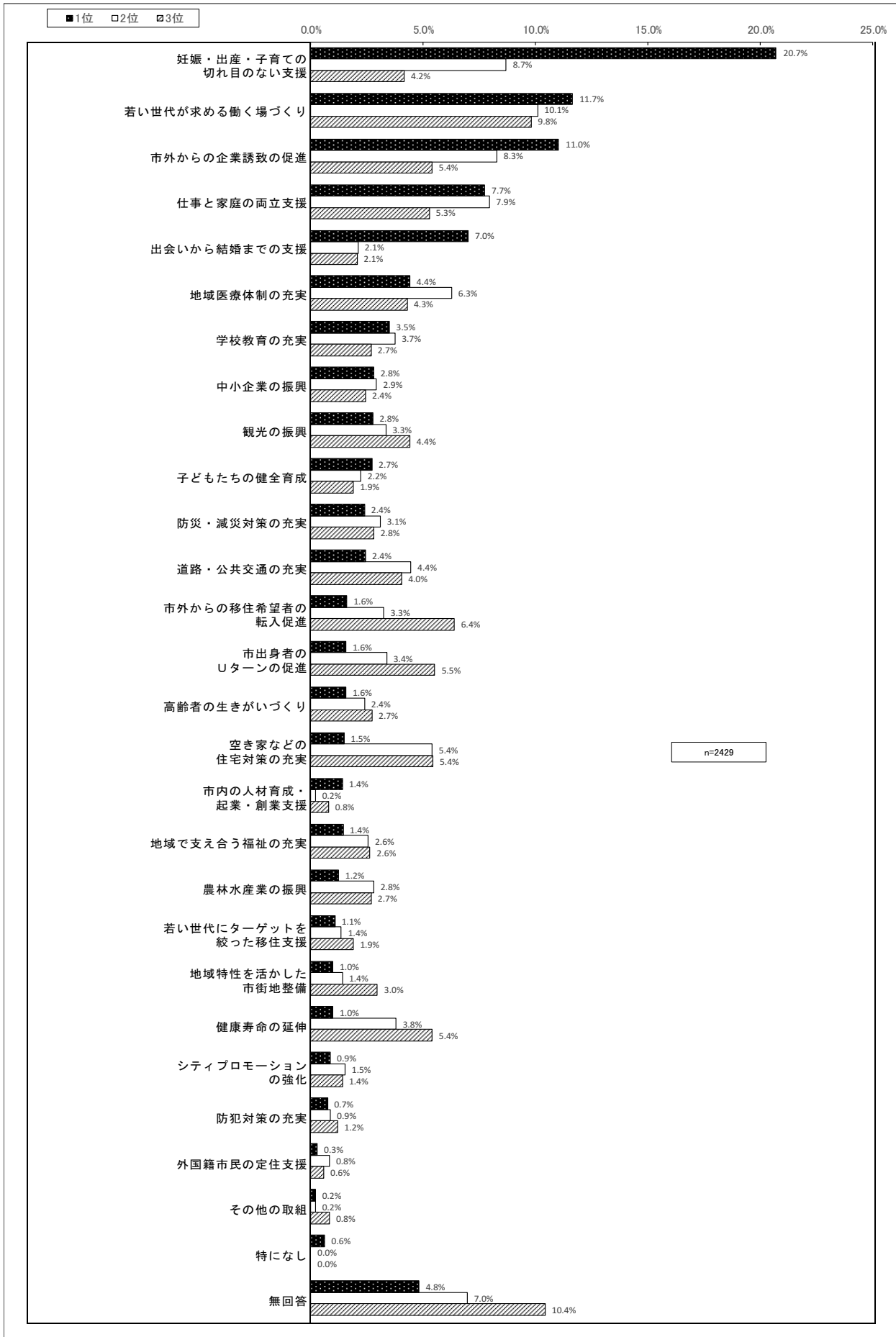


問 15) あなたは、今後の三原市の人口減少を抑えるために、行政がどのような取組に力を入れるべきだと思いますか。優先順位の高い順に1位から3位までを選んでください。

—「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」が突出—

○人口減少を抑えるための取組として、1位に挙がったのは「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」が20.7%と最も高く、次いで「若い世代が求める働く場づくり」の11.7%、「市外からの企業誘致の促進」の11.0%となっています。

図表Ⅱ-15-1 人口減少対策



5 まちの現状の評価と今後取り組むべき施策について【問 16】

問 16) 「1 協働のまち」「2 文化・教育」「3 産業交流」「4 健やかな暮らし」及び「5 安心・安全」の各項目について、三原市の現状をどう思いますか。また、今後、各項目のような市をめざすことが、どのくらい重要だと思いますか。(全 38 項目のうち、15 項目では「今後、特に力を入れてほしい取組」を追加)

○本項では、38 施策を対象に、現状の満足度・今後の重要度の各々の段階に一定の重み(得点)を設定した上、その重みを考慮した平均値(加重平均値^{*})を算出することで、満足度と重要度の水準を相対的に可視化しています。

※加重平均値

現状の満足度・今後の重要度の選択肢に 2 点、1 点、0 点、-1 点、-2 点という得点を設定します。例えば、今後の重要度の選択肢に回答した人数が w_1 、 w_2 、 w_3 、 w_4 、 w_5 であった場合、加重平均値は以下の式で算出できます。

$$\text{加重平均値} = \frac{2 \text{点} \times w_1 + 1 \text{点} \times w_2 + 0 \text{点} \times w_3 + (-1 \text{点}) \times w_4 + (-2 \text{点}) \times w_5}{w_1 + w_2 + w_3 + w_4 + w_5}$$

図表 II-16-1 現状の満足度・今後の重要度に対する加重平均の得点

現状の満足度		今後の重要度	
回答の選択肢	加重平均の得点	回答の選択肢	加重平均の得点
満足	2 点	重要である	2 点
やや満足	1 点	やや重要である	1 点
ふつう	0 点	ふつう	0 点
やや不満	-1 点	あまり重要ではない	-1 点
不満	-2 点	重要ではない	-2 点
わからない	0 点	わからない	0 点

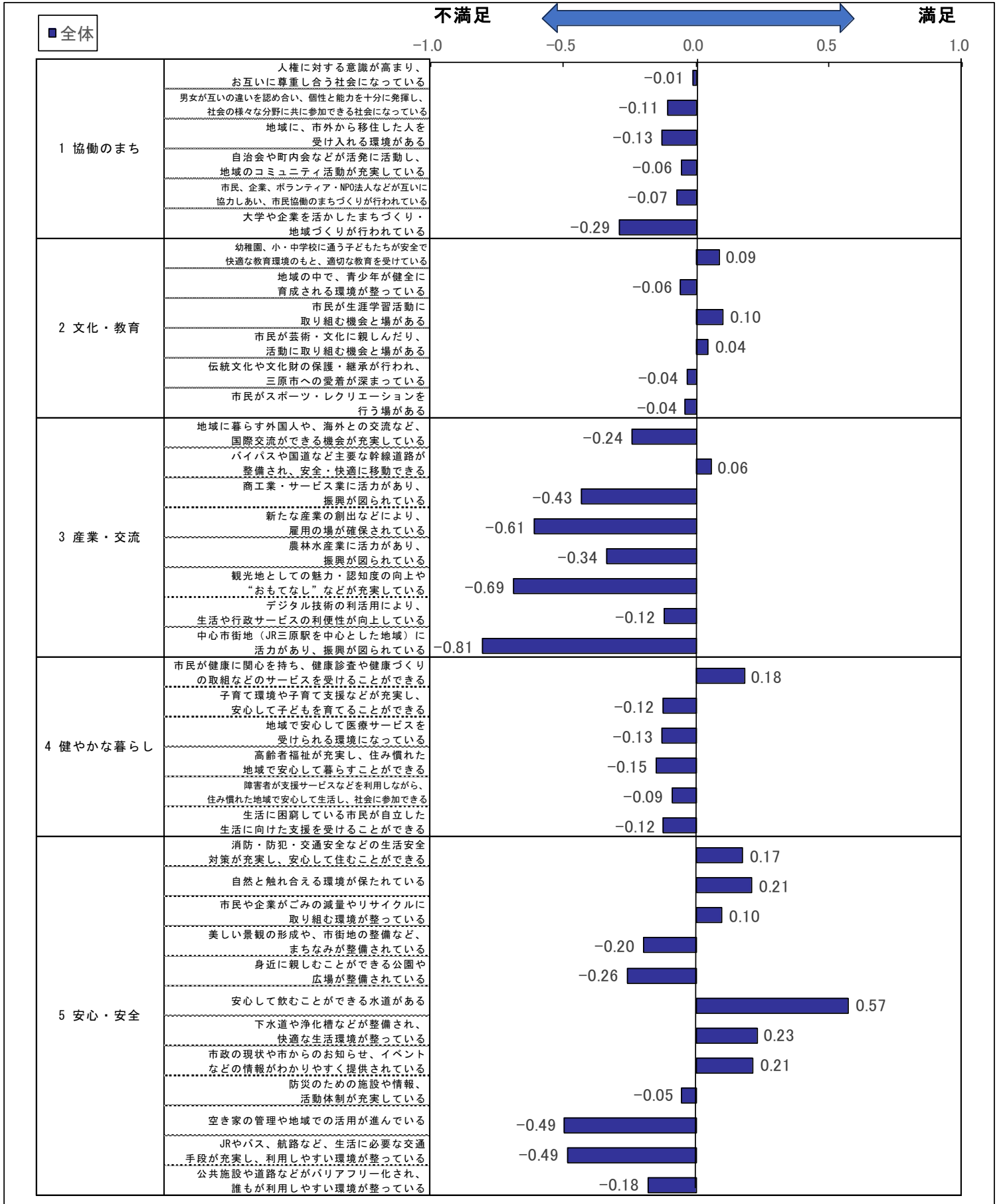
(1) 現状の満足度

—現状の満足度については、「安心して飲むことができる水道がある」、「下水道や浄化槽などが整備され、快適な生活環境が整っている」といった住環境に関連する項目の点数が高い傾向にある—

○満足度の上位 2 項目は、第 1 位が「安心して飲むことができる水道がある」の 0.57、第 2 位が「下水道や浄化槽などが整備され、快適な生活環境が整っている」の 0.23 となっています。

○一方、満足度の下位 2 項目は、第 1 位が「中心市街地(JR 三原駅を中心とした地域)に活力があり、振興が図られている」の -0.81、第 2 位が「観光地としての魅力・認知度の向上や“おもてなし”などが充実している」の -0.69 となっています。

図表Ⅱ-16-2 現状の満足度

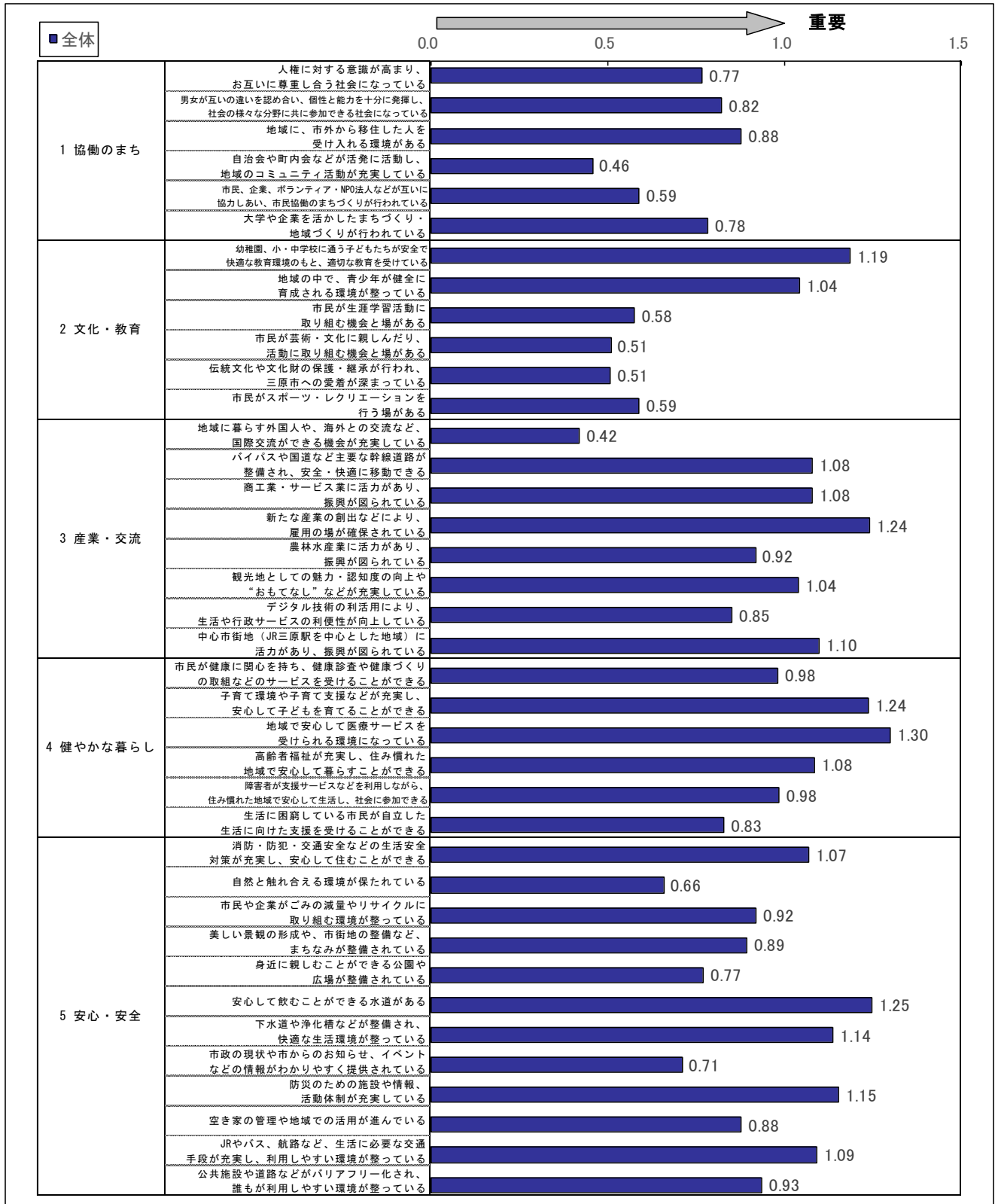


(2) 今後の重要度

—今後の重要度については、「地域で安心して医療サービスを受けられる環境になっている」が1位に—

○重要度の上位2項目は、第1位が「地域で安心して医療サービスを受けられる環境になっている」の1.30、第2位が「安心して飲むことができる水道がある」の1.25となっています。

図表Ⅱ-16-3 今後の重要度



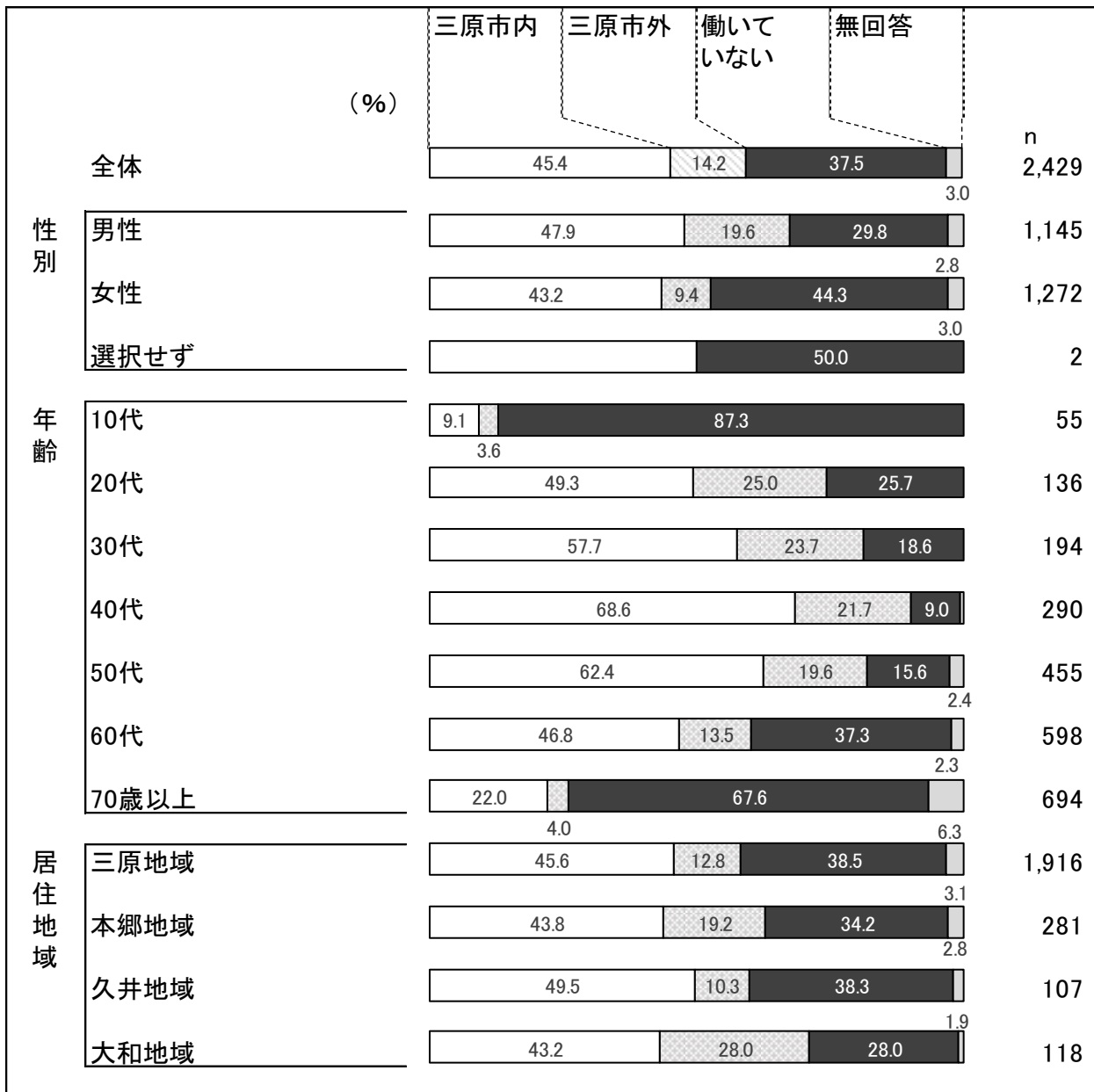
6 就労【問 17】

問 17) 現在、あなたは、どこで働いていますか。

— 「三原市内」の勤労者が 45.4%と、前々回の 45.0%は上回るも、
前回の 48.0%は下回る—

- 勤務先についての質問では、「三原市内」との回答が 45.4%と最も高く、次いで「働いていない」の 37.5%となっています。
- 年代別にみると、「三原市内」で働いていると回答した人の割合は「40代」が 68.6%と最も高く、次いで「50代」の 62.4%、「30代」の 57.7%となっています。
- 居住地域別にみると、「三原市内」で働いていると回答した人の割合は、「久井地域」が 49.5%と最も高く、次いで「三原地域」の 45.6%となっています。

図表Ⅱ-17-1 どこで働いているか

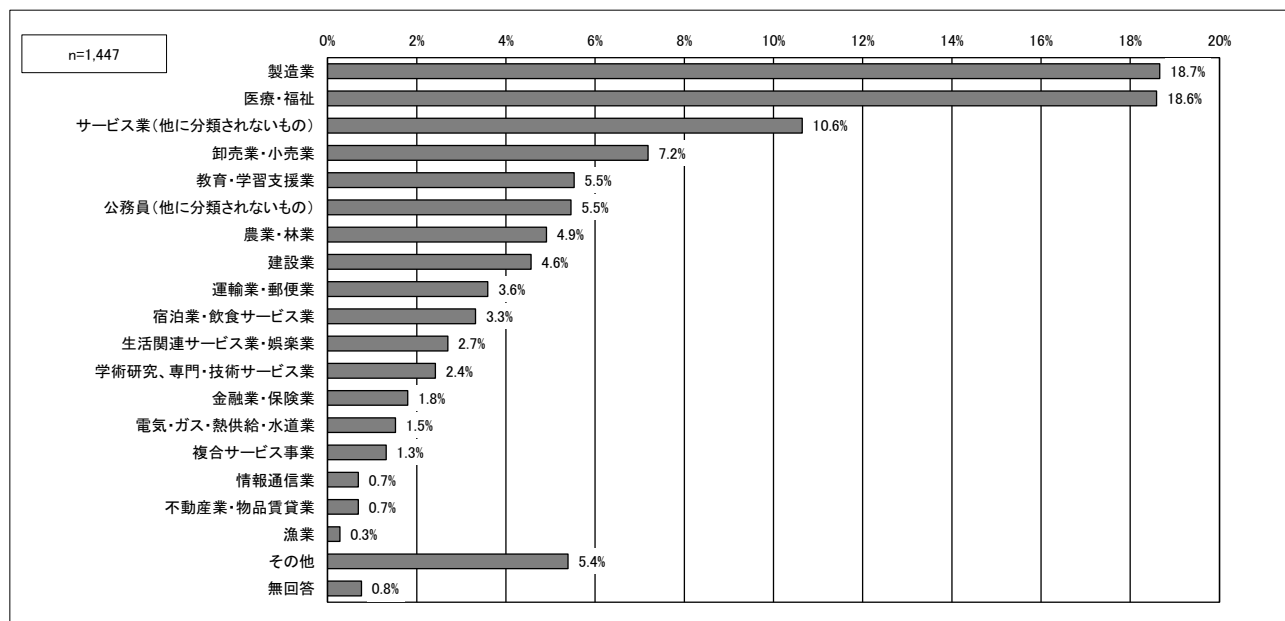


問 17-1) あなたの職業は、何ですか。(問 17 で「三原市内」、または「三原市外」を選んだ方を対象)

—職業では「製造業」と「医療・福祉」が最も多い—

○「製造業」が 18.7%と最も高く、次いで「医療・福祉」が 18.6%と僅差となっています。

図表Ⅱ-17-2 職業

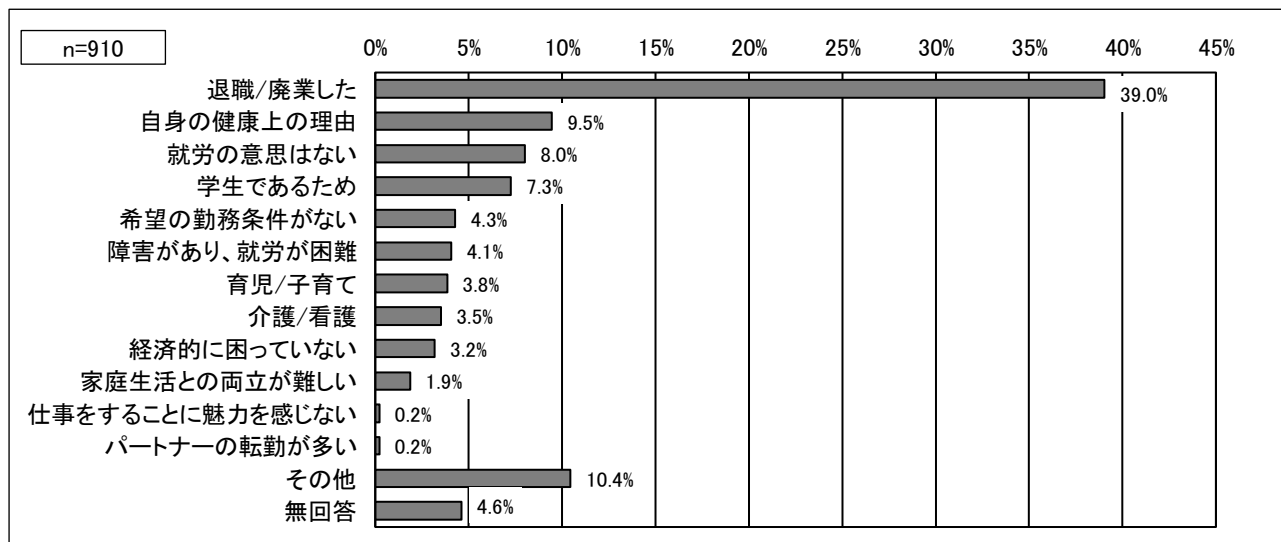


問 17-2) 現在、働いていない理由は何ですか。(問 17 で「働いていない」を選んだ方を対象)

—未就労の理由は「退職/廃業した」が最も多い

○働いていない理由として、「退職/廃業した」が 39.0%と最も高く、次いで「自身の健康上の理由」が 9.5%となっています。

図表Ⅱ-17-3 働いていない理由



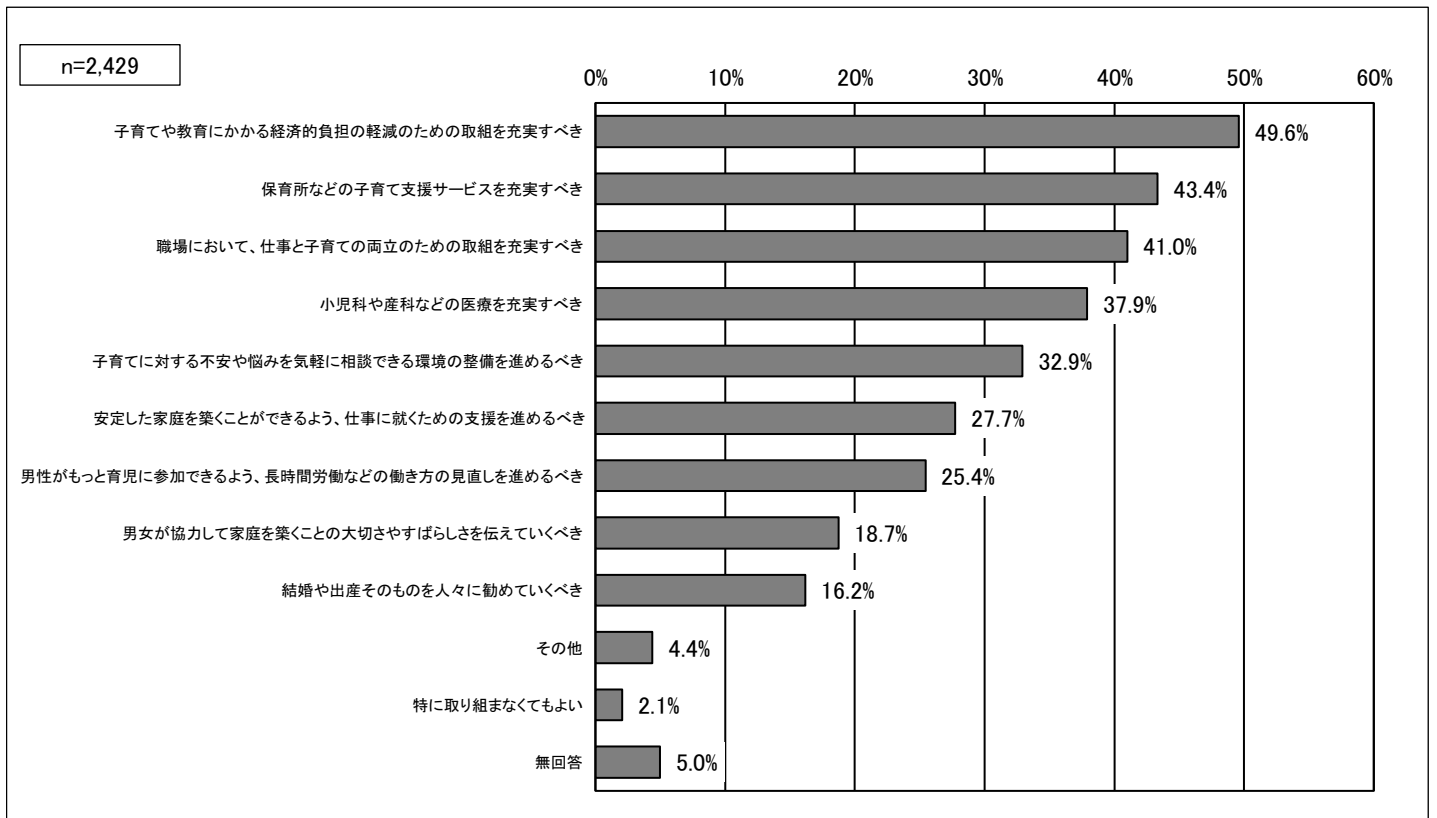
7 少子化【問 18～21】

問 18) あなたは、子どもの数を増やす取組として、どのようにすべきだと思いますか。

— 「子育てや教育にかかる経済的負担の軽減のための取組を充実すべき」との回答率が最高 —

○子どもの数を増やす取組として、「子育てや教育にかかる経済的負担の軽減のための取組を充実すべき」が49.6%と最も高く、次いで「保育所などの子育て支援サービスを充実すべき」が43.4%、「職場において、仕事と子育ての両立のための取組を充実すべき」が41.0%となっています。

図表Ⅱ-18-1 少子化対策(○はいくつでも)



問 19) 50歳未満の方にうかがいます。あなたにとって理想の子ども的人数は何人ですか。

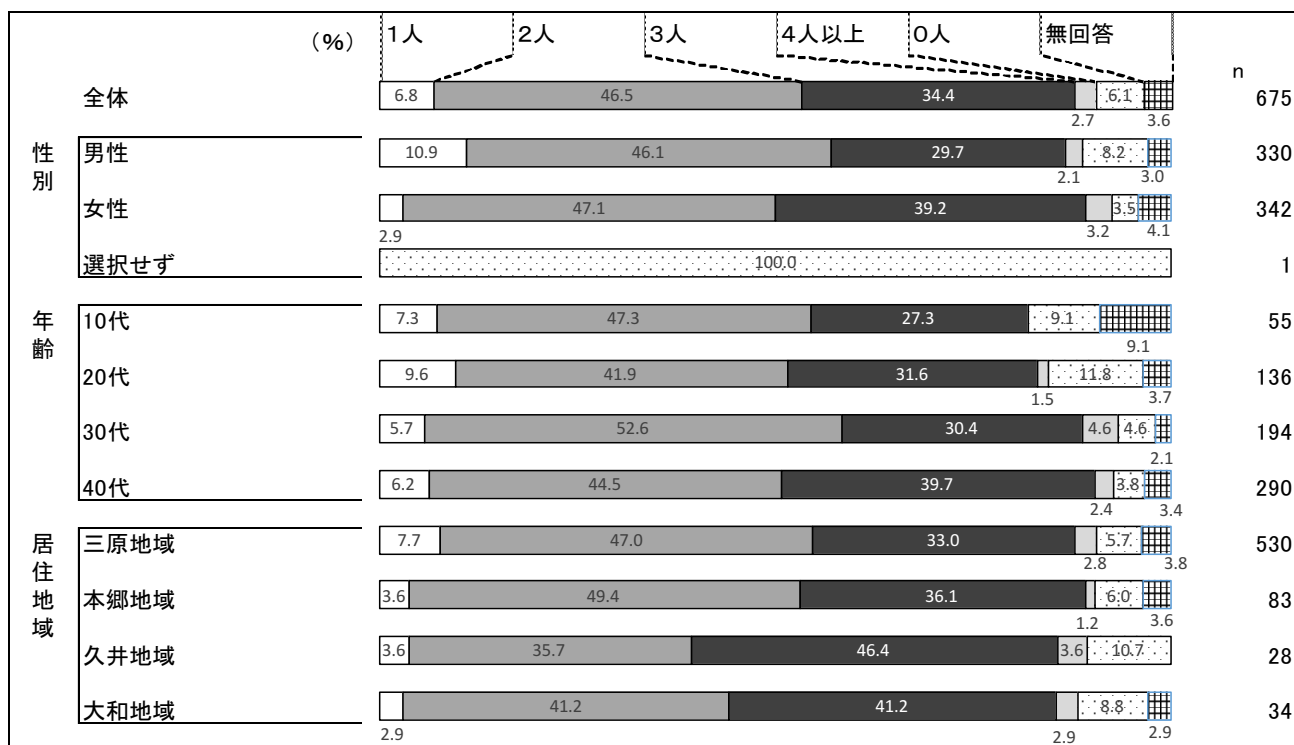
— 「1人」以上の数が90%以上となり、前回調査の80.7%から上昇 —

○理想の子ども的人数は、全体で「1人」以上の回答が90.4%となり、その中でも「2人」が46.5%で最も高く、次いで「3人」が34.4%となっています。

○年代別にみると、全ての年代で「2人」が最も高くなっており、その中でも「30代」が52.6%と最も高く、次いで、「10代」が47.3%となっています。

○居住地域別にみると、「2人」との回答がもっとも多いのが「本郷地域(49.4%)」、「三原地域(47.0%)」、「3人」との回答が最も多いのが「久井地域(46.4%)」となっています。

図表Ⅱ-19-1 理想の子どもの数

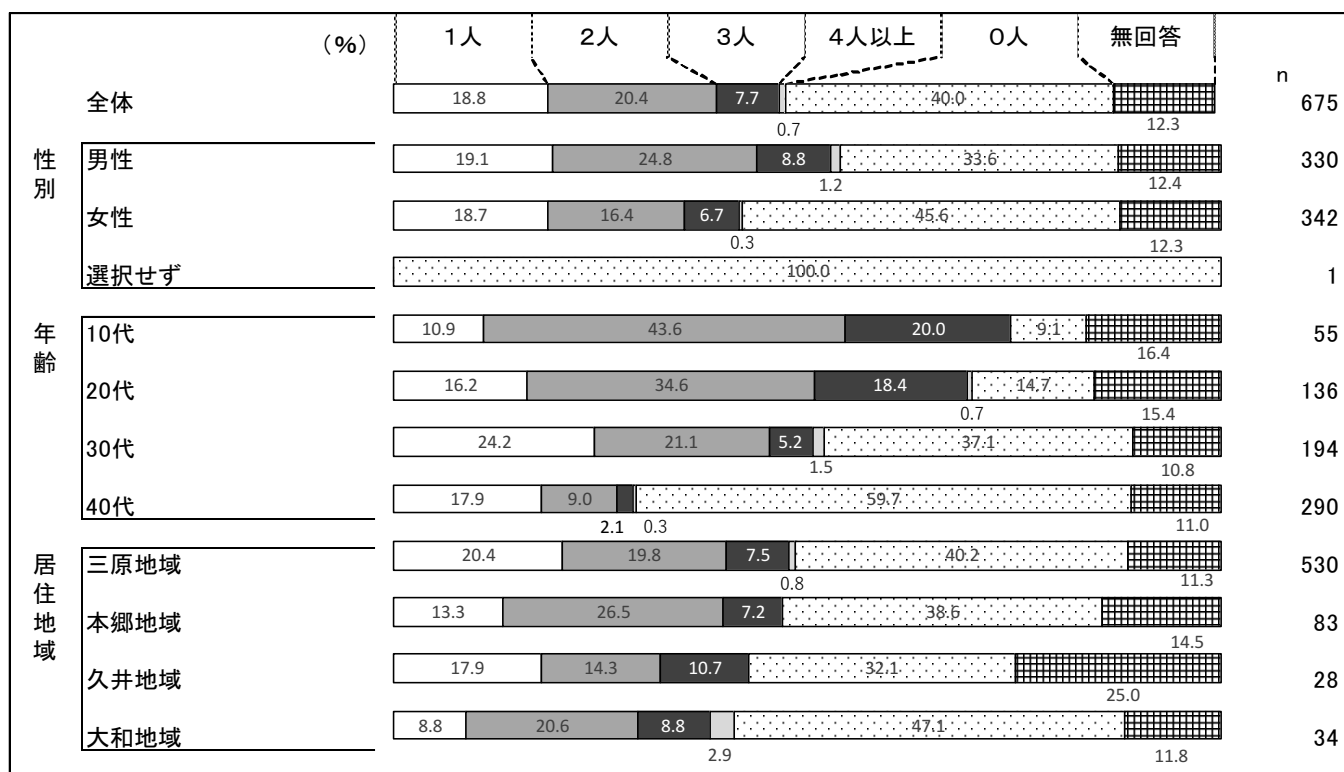


問 20) あなたは、あと何人子どもを持ちたいですか。

— 「子どもを持ちたい」との回答が、「持ちたくない」との回答を上回る—

- あと何人子どもを持ちたいかについて、全体では「子どもを持ちたい（「1人（18.8%）」＋「2人（20.4%）」＋「3人（7.7%）」＋「4人以上（0.7%）」が47.6%で、「持ちたくない（「0人（40.0%）」）の40.0%を上回っています。
- 年代別にみると、「子どもを持ちたい」と回答した人の割合は、「40代」を除きいずれも50%以上となっており、その中では「10代」が74.5%と最も高く、次いで「20代」の69.9%となっています。
- 地域別にみると、「子どもを持ちたい」と回答した人の割合は、「三原地域」が48.5%で最も高く、次いで「本郷地域」の47.0%となっています。

図表Ⅱ-20-1 欲しい子どもの数



問 21) 問 19・20 で「0人」と答えた理由は何ですか。(自由記述)

(抜粋)

- ・出産が肉体的にも、精神的にも、経済的にかなりしんどい
- ・経済的に厳しい
- ・年齢的に難しい
- ・働きながらの子育てはとても大変
- ・今いる子どもを育てるので精一杯
- ・理想の子供の数に達している
- ・学校生活等で問題が多すぎる
- ・子どもを持つ事に対する親への責任の増加している
- ・公共交通機関が不便で、保育所、学校が少ないため三原市で子育てするのに全く前向きになれない
- ・子どもをそもそも欲しいと思わない
- ・夫婦での時間を楽しみたい
- ・結婚願望自体がない

8 スポーツ【問 22・23】

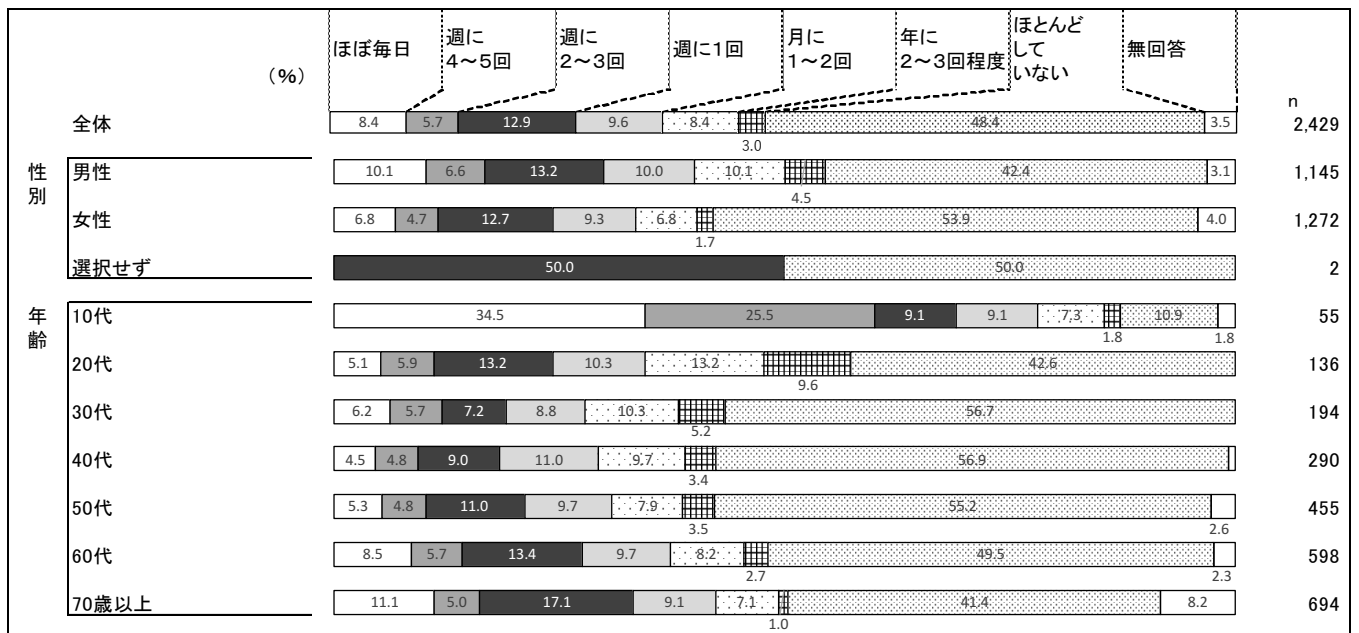
問 22) あなたは、この1年間、スポーツや運動（1回あたり30分程度以上）をどのくらいの頻度で行っていますか。

— 「週1回以上」は36.6%と、「週1回未満」の59.8%を下回る—

○運動の頻度について、全体では「週1回以上（「ほぼ毎日（8.4%）」＋「週に4～5回（5.7%）」＋「週に2～3回（12.9%）」＋「週に1回（9.6%）」）が36.6%で、「週1回未満（「月に1～2回」（8.4%）」＋「年に2～3回（3.0%）」＋「ほとんどしていない（48.4%）」の59.8%を下回っています。

○年代別にみると、「週1回以上」と回答した人の割合は、「10代」が78.2%と最も高く、次いで「70歳以上」の42.3%となっています。

図表Ⅱ-22-1 運動の頻度



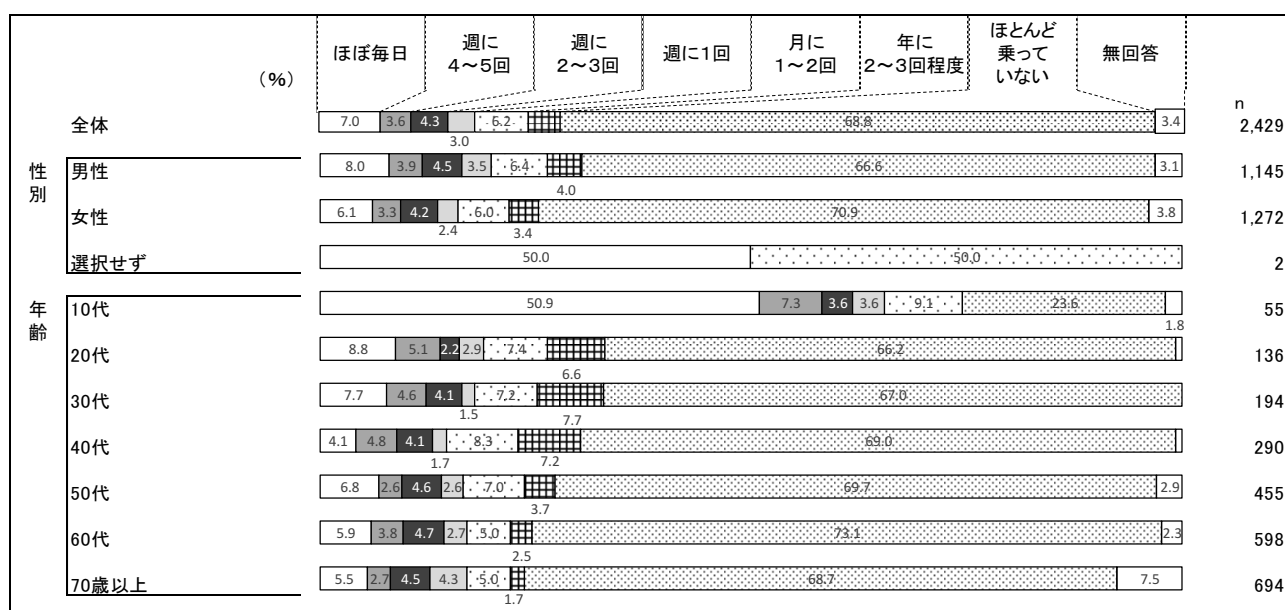
問 23) あなたは、この1年間、自転車にどのくらいの頻度で乗っていますか。

— 「ほとんど乗っていない」が68.8%で最も多い—

○自転車に乗る頻度について、全体では「週1回以上(「ほぼ毎日(7.0%)」+「週に4~5回(3.6%)」+「週に2~3回(4.3%)」+「週に1回(3.0%)」)」が17.9%で、「週1回未満(「月に1~2回(6.2%)」+「年に2~3回(3.7%)」+「ほとんど乗っていない(68.8%)」)の78.7%を下回っています。

○年代別にみると、「週1回以上」と回答した人の割合は、「10代」が65.4%と最も高く、次いで「20代」の17.9%となっています。

図表Ⅱ-23-1 運動の頻度



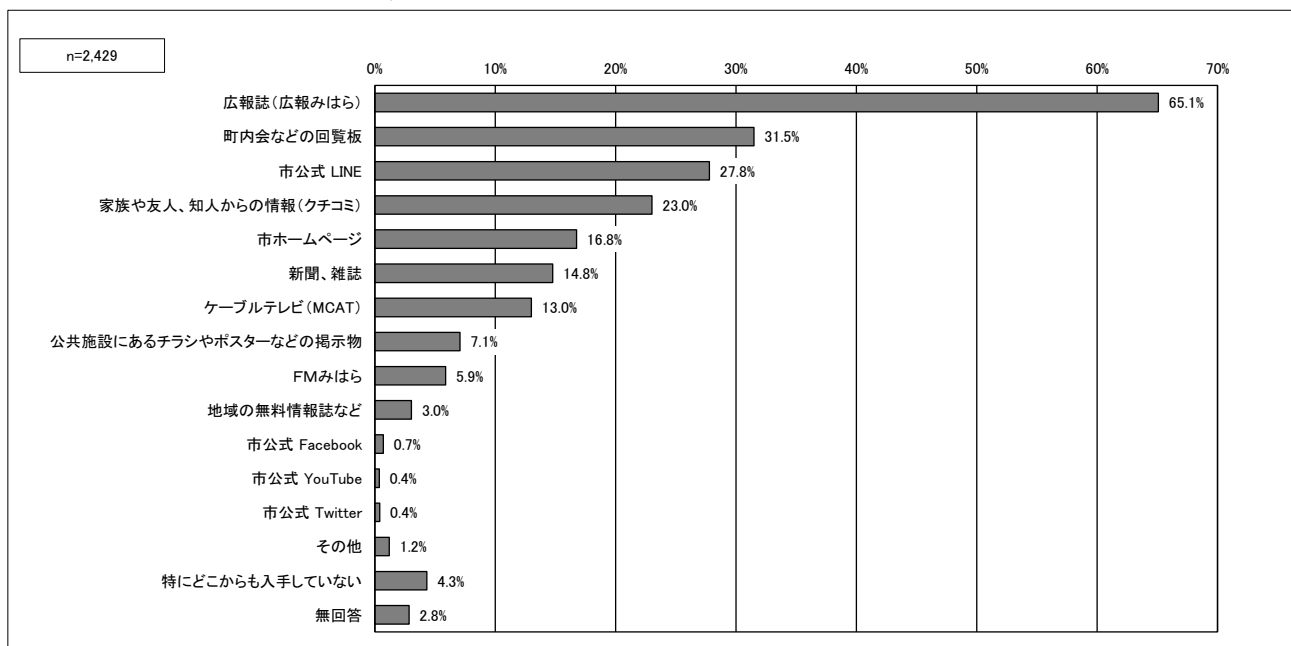
9 市からの情報発信【問 24～26】

問 24) あなたは、市の情報を主にどのような手段で入手していますか。

—「広報誌（広報みはら）」が 65.1% で最も多い—

○市からの情報入手について、「広報誌（広報みはら）」が 65.1% と最も多く、次いで「町内会などの回覧板」の 31.5%、「市公式 LINE」の 27.8% となっています。

図表Ⅱ-24 情報入手媒体（○は3つまで）

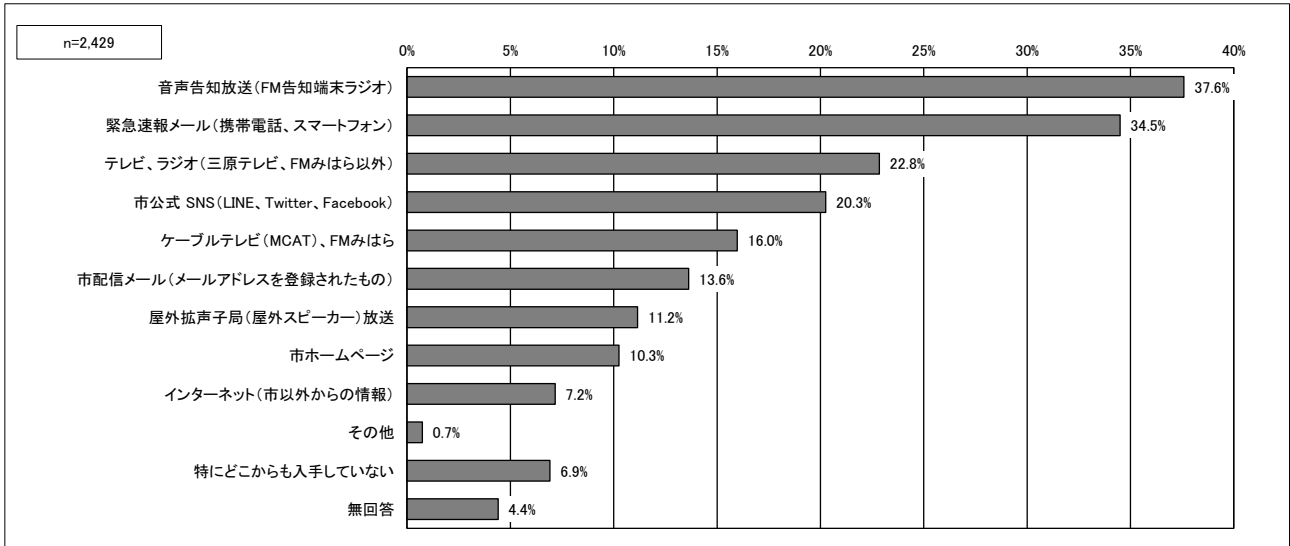


問 25) あなたは、市が発信している避難情報を主にどのような手段で入手していますか。

—「音声告知放送（FM 告知端末ラジオ）」が 37.6% で最も多い—

○避難情報の入手媒体について、「音声告知放送」が 37.6% と最も多く、次いで「緊急速報メール（電話、スマートフォン）」の 34.5%、「テレビ、ラジオ（三原テレビ、FM みはら以外）」の 22.8% となっています。

図表Ⅱ-25 避難情報入手媒体 (〇は3つまで)

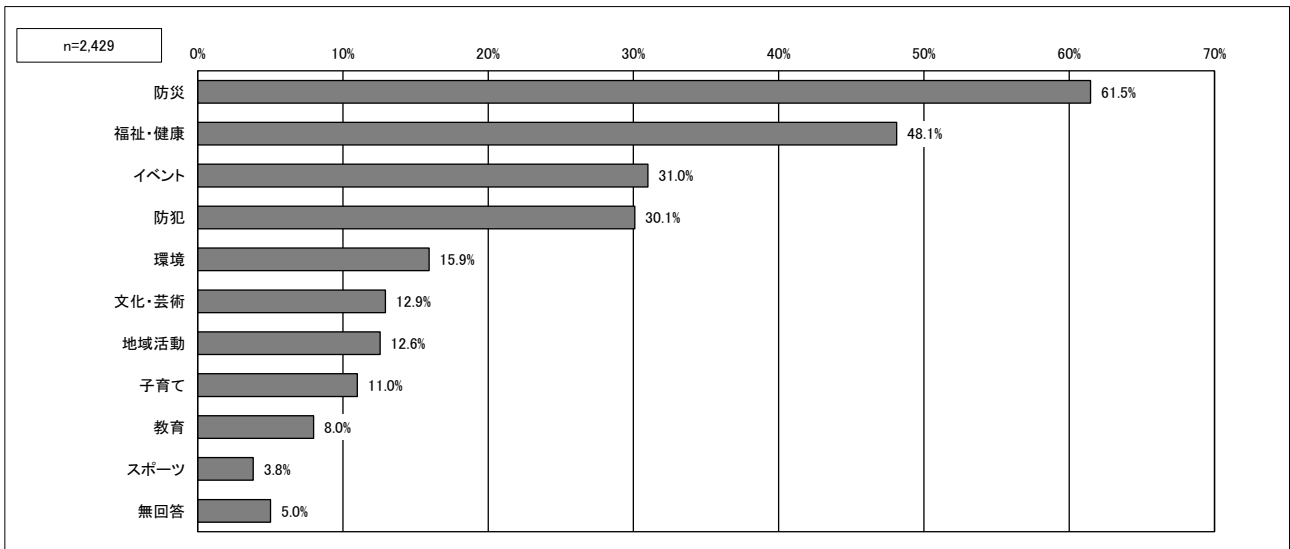


問 26) あなたにとって必要な市からの情報は何か。

— 「防災」が 61.5% で突出している —

○必要な情報について、「防災」が 61.5% と最も多く、次いで「福祉・健康」の 48.1%、「イベント」の 31.0% となっています。

図表Ⅱ-26 必要な市からの情報 (〇は3つまで)



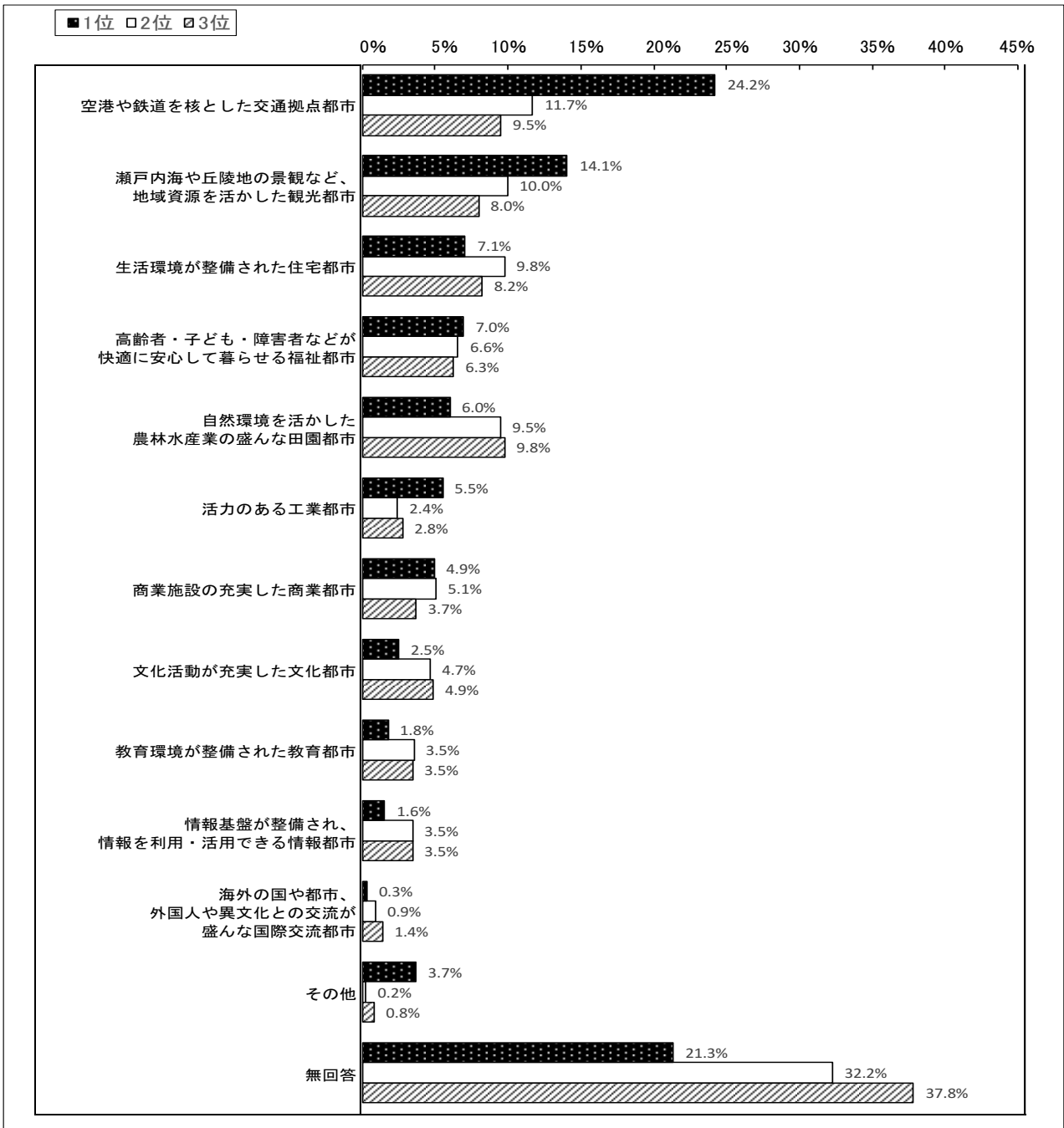
10 まちのイメージやめざすべき将来像のキーワード【問 27・28】

問 27) あなたが考える「現在の三原市のイメージ」と「将来の望ましい三原市のイメージ」について、優先順位の高い順に 1 位から 3 位まで選んでください。

— 「現在のイメージ」は「空港や鉄道を核とした交通拠点都市」が 1 位 —

○現在の三原市のイメージについては、「空港や鉄道を核とした交通拠点都市」が 24.2%と最も多く、次いで「瀬戸内海や丘陵地の景観など、地域資源を活かした観光都市」の 14.1%となっています。

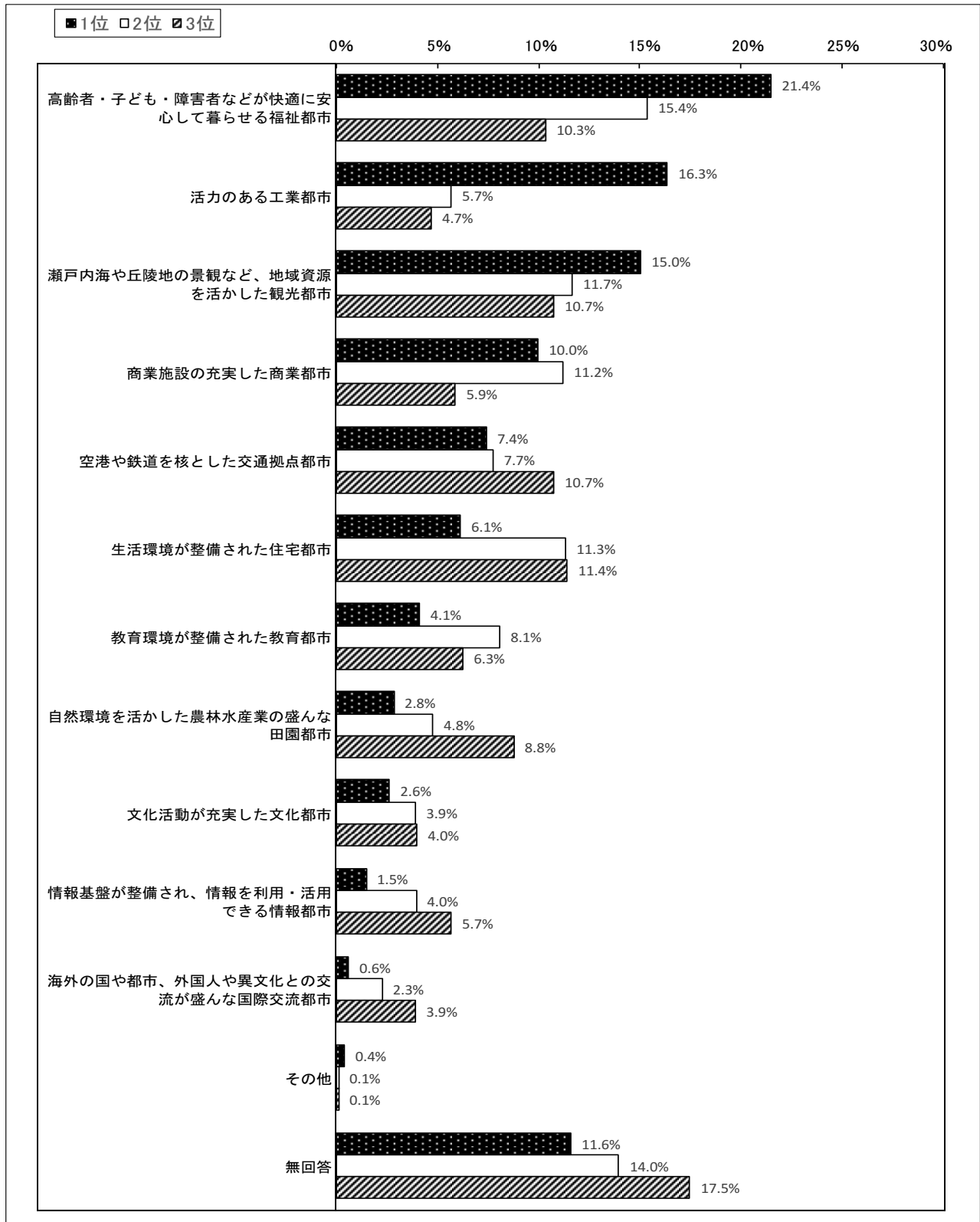
図表Ⅱ-27-1 現在の三原市のイメージ



—「将来のイメージ」は「高齢者・子ども・障害者などが
快適に安心して暮らせる福祉都市」が1位—

○将来の三原市のイメージについては、「高齢者・子ども・障害者などが快適に安心して暮らせる福祉都市」が21.4%と最も多く、次いで「活力のある工業都市」の16.3%となっています。

図表Ⅱ-27-2 将来の三原市のイメージ



問 28) 今後 20 年先から 30 年先を見すえた中で、「三原市がめざすべきまちの姿を表す言葉（キーワード）」や「大切にしてほしいこと」について、優先順位の高い順に 1 位から 3 位まで選んでください。

— 「キーワード」、「大切にしてほしいこと」は、「支え合い」が 1 位—

○ 「キーワード」、「大切にしてほしいこと」については、「支えあい」が 10.7%と最も多く、次いで「笑顔」の 9.9%、「快適」の 9.2%となっています。

図表Ⅱ-28 「キーワード」、「大切にしてほしいこと」

